

様式1

大学等名	北海商科大学
プログラム名	北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

プログラムを構成する必修科目7単位を修得すること。
必修科目:「データサイエンス・AI論」2単位、「コンピュータ・リテラシーⅠ」3単位、「コンピュータ・リテラシーⅡ」2単位

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス・AI論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス・AI論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス・AI論	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス・AI論	2	○	○	○					
コンピュータ・リテラシーⅠ	3	○	○						

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス・AI論	2	○	○	○							
コンピュータ・リテラシー I	3	○			○						
コンピュータ・リテラシー II	2	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス・AI論	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「データサイエンス・AI論」(第2回、第5回、第9回、第11回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス・AI論」(第9回、第12回、第13回、第14回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス・AI論」(第1回、第2回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンス・AI論」(第9回、第11回) ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス・AI論」(第2回、第3回、第9回、第10回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス・AI論」(第3回、第9回、第10回)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「データサイエンス・AI論」(第9回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データサイエンス・AI論」(第11回、第12回、第13回) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「データサイエンス・AI論」(第10回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス・AI論」(第5回、第12回、第13回、第14回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス・AI論」(第5回、第13回、第14回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データサイエンス・AI論」(第5回、第9回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「データサイエンス・AI論」(第12回、第13回、第14回) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス・AI論」(第5回、第14回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス・AI論」(第3回、第9回、第12回、第13回、第14回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス・AI論」(第3回、第9回、第12回、第13回、第14回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス・AI論」(第9回、第12回、第13回、第14回) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「データサイエンス・AI論」(第9回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析「データサイエンス・AI論」(第3回、第10回、第12回、第13回、第14回) ・データ可視化「データサイエンス・AI論」(第6回、第13回、第14回) ・非構造化データ処理・言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス・AI論」(第9回、第10回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス・AI論」(第9回、第10回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス・AI論」(第2回、第3回、第9回、第10回) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンス・AI論」(第9回、第10回)
	1-5	・データサイエンスのサイクル「データサイエンス・AI論」(第12回、第13回、第14回) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス・AI論」(第3回、第9回、第10回、第12回、第13回、第14回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回)「コンピュータ・リテラシーⅠ」(第1回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回、第12回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データサイエンス・AI論」(第11回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「データサイエンス・AI論」(第11回) ・AIサービスの責任論「データサイエンス・AI論」(第11回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回、第12回、第13回、第14回) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・拡散など)「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報採取「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回、第12回、第13回、第14回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回) ・サイバーセキュリティ「データサイエンス・AI論」(第4回、第11回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス・AI論」(第6回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス・AI論」(第6回) ・代表値の性質の違い「データサイエンス・AI論」(第6回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データサイエンス・AI論」(第6回) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「データサイエンス・AI論」(第13回) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ「データサイエンス・AI論」(第13回) ・母集団と標本抽出「データサイエンス・AI論」(第7回、第12回、第13回、第14回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンス・AI論」(第13回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「データサイエンス・AI論」(第6回、第13回)「コンピュータ・リテラシーⅡ」(第6回、第7回、第8回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データサイエンス・AI論」(第13回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データサイエンス・AI論」(第6回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス・AI論」(第14回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「データサイエンス・AI論」(第13回、第14回)「コンピュータ・リテラシーⅡ」(第3回)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「データサイエンス・AI論」(第12回、第13回、第14回)「コンピュータ・リテラシーⅡ」(第7回) ・データの集計(和、平均)「コンピュータ・リテラシーⅠ」(第9回、第10回)「コンピュータ・リテラシーⅡ」(第8回) ・データの並び替え、ランキング「コンピュータ・リテラシーⅠ」(第10回)「コンピュータ・リテラシーⅡ」(第9回、第10回、第11回) ・表形式のデータ(csv)「コンピュータ・リテラシーⅠ」(第7回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データやAIとは何かという基本的知識をもって、その活用領域の広がりや価値を理解できます。
- ・統計情報の意味を正しく理解し、正しい使い方と意思決定に役立てることができます。
- ・AIの特徴を理解して、AIを活用するための必要な素養を身に付けることができます。
- ・データやAIを活用する際に求められるモラルや倫理を身に付けることができます。
- ・コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができます。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 427人 女性 310人 (合計 737人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
商学部 共通学科	355	180	360	189	0											189	53%
商学部 商学科	267	120	240	0	0											0	0%
商学部 観光産業学科	115	60	120	0	0											0	0%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	737	360	720	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189	26%

大学等名 北海商科大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 33 人 (非常勤) 12 人

② プログラムの授業を教えている教員数 11 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 堂徳将人

(役職名) 学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会

(責任者名) 玉井航太

(役職名) 准教授

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会規程

⑥ 体制の目的

北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会は、本学の「北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の全学的な実施、並びにプログラムの改善・向上及び自己点検・評価を行うことを目的としている。

⑦ 具体的な構成員

商学部 准教授 玉井航太(委員長)
商学部 教授 伊藤寛幸
商学部 教授 中西良之
商学部 教授 三田村保
教務センター事務

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	26%	令和7年度予定	51%	令和8年度予定	76%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	720
具体的な計画					
本プログラムは在学生の全員が履修可能となっており、本学の全学必修科目である専門基礎科目に配置されている「データサイエンス・AI論」と「コンピュータ・リテラシーⅠ」、「コンピュータ・リテラシーⅡ」がプログラムを構成している科目となっていることから、全学生が履修することとし履修者数については入学者数となる。 なお、必修科目であることから、履修率の向上に向けた計画は設定されていないが、プログラム対象科目が必修科目であることから、入学時ガイダンスにおける履修登録説明などが整備されている。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

④に記載のとおり、本プログラムの対象科目は全学科必修科目として設定していることから、基本的には100%の履修率となっている。また、当該年次に履修中止した場合や単位認定基準に満たなかった場合は翌年再履修することが可能となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

④に記載のとおり、本プログラムの対象科目は全学科必修科目として設定していることから、基本的には100%の履修率となっている。また、専門基礎科目に配置されている「データサイエンス・AI論」と「コンピュータ・リテラシーⅠ」、「コンピュータ・リテラシーⅡ」のシラバスは、HPで公開し、履修及び到達目標、授業内容、成績評価方法・基準などの詳細についても示している。また、同様に、④に記載したとおり、プログラム対象科目が必修科目であることから、入学時ガイダンスにおける履修登録説明などが整備されている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

プログラムに関する質問を常時受け付けており、質問内容に応じて教務センターまたは北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会から回答できる体制にしている。また本プログラムの対象科目では、LMSを用いて、教材の提示だけではなく、小テストの実施やレポート課題の提出をオンラインで行うことができ、LMSを通じて個別指導を行うことができる。

また、「データサイエンス・AI論」は履修者を3クラスに分けた上で複数担当教員によるオムニバス形式をとっており、すべての履修者が同一の教員から同一内容を教えられ、同一の課題やテストが同一の基準で評価される形をとっており、公平性を担保しつつ、修得できるためのサポート体制を講じている。「コンピュータ・リテラシーⅠとⅡ」は30人を上限とした少人数クラスで編成されており、少人数教育を通して細やかな対応を可能としている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

⑪の記載のとおり、質問内容に応じて教務センターまたは北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会から回答できる体制にしている。また、本プログラムの対象科目では、LMSを用いて、教材や資料の提示をおこない、予習や復習に活用できるようにしており、個別指導もおこなうことができる。

また、HPで担当教員への連絡先を示しており、学生はメール等により質問をすることができる。科目担当の専任教員についてはオフィスアワーを設けており、学生からの質問に対面形式で回答することができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会

(責任者名) 玉井航太

(役職名) 准教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提示する「モデルカリキュラム(リテラシーレベル)」に準拠した授業を展開した「データサイエンス・AI論」、データを扱ったコンピュータ実習授業である「コンピュータ・リテラシーⅠとⅡ」については、必修科目であることから履修状況については問題ないが、北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会において、修得状況(単位取得状況)については学修成績分布等、授業実施状況、出席状況、成績評価及び基準等について分析を行い、全体の理解度を検証する。なお、その結果は教務センターにて報告し、学生の履修指導、修学指導につなげる。
学修成果	学修成果については、各科目におけるLMSを通じた小テストや提出課題の点数や総合成績点による成績分布から把握している。また、本プログラムを構成する科目においては、全学的に行われている授業評価アンケートより学生の意見・要望を取り入れ、改善を図っている。授業評価アンケートの「授業内容の理解度」と「難易度」、「総合評価」の評価項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握し、修得者の成績分布と共に、その結果を教務センターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムを構成する科目においては、全学的に行われている授業評価アンケートの「授業内容の理解度」と「難易度」、「総合評価」の評価項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を分析している。それらは科目担当教員で共有されている。特に「データサイエンス・AI論」は3クラス編成によるオムニバス形式であるため、LMSを通じた小テストや提出課題の点数、授業評価項目のクラス間比較を通して学生の内容理解度の共通性や公平性を評価している。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	本プログラム対象科目は、卒業要件の必修科目であることから後輩等他の学生への推奨度は確認してはいないが、本学ホームページにて「授業評価アンケート」の結果を公開し、閲覧可能としている。既修者の評価結果を参照できるため、後輩等他の学生は推奨度を把握することができる。そして、すべての対象科目において、授業評価アンケートにおける総合評価としても「良い・どちらかという良い」と回答していた学生が70%以上と肯定的な評価結果となっており、後輩等への推奨度は高いと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラム対象科目である「データサイエンス・AI論」、データを扱ったコンピュータ実習授業である「コンピュータ・リテラシーⅠ」と「コンピュータ・リテラシーⅡ」は、全学必修科目として実施しており、休学者などを除けば実質100%に近い履修率となっている。また不合格者についても次の年度以降に再履修するようになっている。今後も、全学必修科目として継続してプログラムを実施する見込みである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	当該プログラムにおける本授業科目である「データサイエンス・AI論」は令和6年度より開講されたため、当該授業を修得し単位を修得して卒業した学生をまだ輩出していないが、卒業後、事務局（キャリア支援センター）が実施している「過年度卒業生および就職先等への調査」を活用しながら、卒業後の追跡調査を実施する等、修了者のキャリアステップや活躍状況の把握に努めたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	教育プログラムの内容や手法については、全学的に実施されている授業評価アンケートの結果を基本として、改善をおこなっている。また、産業界からの視点については、数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会の委員が企業の担当者と情報教育に対する意見交換を行っている。その中で、データサイエンスやAI、情報セキュリティ等のリテラシー教育について、本教育プログラムに期待することや実務で必要な知識・スキルに関する情報を収集している。また、「データサイエンス・AI論」において、IT系の外部企業講師を招聘し、講義をおこなってもらっており、本プログラムへの意見を求め、改善につなげるようにしていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムの対象科目では、ビジネス分野に対応し、対応できるようになるということが共通目標として設定されている。「データサイエンス・AI論」では、データサイエンスやAIの基礎的知識を学ぶだけでなく、ビジネス分野における応用事例を積極的に取り扱っている。また、「コンピュータ・リテラシーⅠ」と「Ⅱ」では、PCを用いたデータ分析についての基礎を学ぶだけでなく、ビジネスシーンにおける実際的な例題処理を通じた学習がなされている。自身の専門分野とのつながりの認識と、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義の理解について、全学的に行われている授業評価アンケートの評価項目を分析している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムでは、「文系大学生」に対するリテラシーレベルの基礎的素養の育成を目的としているため、文系大学生にとって分かりやすい説明・解説・教材を重視している。また、学修支援システム（LMS）による授業資料の提示、課題の提出、小テストの実施を通して学生の習熟度向上を図っている。実習科目であるため「コンピュータ・リテラシーⅠ」と「Ⅱ」では30人を上限とした少人数クラス制度を採用し、学生への細やかな個別指導を可能としている。これら学習内容の水準を維持・向上しつつ、分かりやすい授業とする取り組みについては、全学的に行われている授業評価アンケートの評価項目を分析している。

2024（令和6）年度

講義概要

（シラバス）

北 海 商 科 大 学

商学科／観光産業学科

区分	科目名	担当者名	ページ
社会と文化	異文化ゼミナール	舩田 佳弘	66
	異文化ゼミナール	見附 陽介	67
	異文化ゼミナール	坂口 可奈	68
	異文化ゼミナール	山口 晴敬	69
2. 専門基礎科目			
専門基礎科目	データサイエンス・AI 論	玉井 航太 見附 陽介 澤内 大輔 三田村 保	71
	経済と社会の仕組みⅠ	複数担当教員	72
	経済と社会の仕組みⅡ	複数担当教員	73
	経済システム理論Ⅰ	複数担当教員	74
	経済システム理論Ⅱ	複数担当教員	75
	コンピュータ・リテラシーⅠ	複数担当教員	76
	コンピュータ・リテラシーⅡ	複数担当教員	77
3. 専門関連科目			
専門関連科目	経済理論 A	深澤 史樹	79
	経済理論 B	深澤 史樹	80
	応用経済 A	李 炯直	81
	応用経済 B	李 炯直	82
	北海道経済論	竹野 学	83
	日本経済論 A	竹野 学	84
	日本経済論 B	竹野 学	85
	現代中国経済論	伊藤 昭男	86
	現代韓国経済論	李 炯直	87
	比較企業形態論	伊藤 昭男	88
	アジア比較文化論	舩田 佳弘	89
	比較経済論 A	李 炯直	90
	比較経済論 B	李 炯直	91
	国際関係論（政治学を含む）	坂口 可奈	92
	環境科学論	池ノ上 真一	93
	環境経済論	澤内 大輔	94
	公共経済論	阿部 秀明	95
	情報社会と統計	玉井 航太	96
	社会心理学	細野 昌和	97
	民法基礎	石月 真樹	98
	商法基礎	中元 啓司	99
	経済法	岡本 直貴	100
	法社会の基礎（日本国憲法を含む）	種田 健一郎	101
	量的社会調査方法論 A（旧社会調査方法論 A）	玉井 航太	103
	量的社会調査方法論 B（旧社会調査方法論 B）	玉井 航太	104
	地域コミュニティ論	玉井 航太	105
	現代中国論 A	佐藤 千歳	106
	現代中国論 B	佐藤 千歳	107
	東アジア政治思想 A	佐藤 千歳	108
	東アジア政治思想 B	佐藤 千歳	109
	特殊講義Ⅰ（経営学の基礎）	堤 悦子	110
	特殊講義Ⅰ（ファイナンシャルプランニング）	松原 英二	111
	特殊講義Ⅰ（職業キャリアデザイン）	複数担当教員	113
	特殊講義Ⅰ（文学からみた北海道・東北）	保坂 智	114
	特殊講義Ⅰ（東南アジア地域研究）	坂口 可奈	115
	特殊講義Ⅰ（暮らしと金融）	松原 英二	116
	特殊講義Ⅰ（韓国言語）	水野 俊平	117
	特殊講義Ⅰ（アジア史）	山田 勅之	118
	特殊講義Ⅱ（日本古典文学の風景）	保坂 智	119
	特殊講義Ⅱ（シンガポール地域研究）	坂口 可奈	120
	特殊講義Ⅱ（韓国歴史）	水野 俊平	121
	特殊講義Ⅱ（西洋・東洋の思考）	伊藤 昭男	122
	特殊講義Ⅲ（観光発展史 A）	郭 倩	123
	特殊講義Ⅲ（東アジア観光 A）	郭 倩	124
	特殊講義Ⅳ（インターンシップ）	複数担当教員	125

科目名	データサイエンス・AI論	科目コード	1611	単位数	2
担当者名	玉井 航太 見附 陽介 澤内 大輔 三田村保	開講セメスター	第1セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BIs1	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

Society 5.0で実現する社会を見据え、日常生活や仕事場で現れるデータやAIを理解するための基礎的教養を身につける。そして、データサイエンス・AIに関する基礎的知識をもとに、より専門的な事柄への理解を深められ、人間中心の適切な判断ができ、データサイエンス・AIの観点から説明し活用できる能力を身につける。

● 到達目標

社会におけるデータサイエンス・AIの利活用について理解し説明できるようになるとともに、この授業だけではなく、他の授業においても示されることのあるデータなどを理解し、AIを活用するための基礎力を身につける。また、それらを扱う際の留意事項についても理解できるようになる。

● 授業内容

- 1週目 授業ガイダンス/データサイエンス・AI論導入
 - 2週目 パートA-1：社会の変化（産業革命とIT革命）
 - 3週目 パートA-2：データ・AIが変える働き方と生活
 - 4週目 パートA-3：情報倫理とセキュリティの留意事項
 - 5週目 パートB-1：データの種類と分布
 - 6週目 パートB-2：統計情報の正しい理解とデータの可視化
 - 7週目 パートB-3：数理統計の基礎
 - 8週目 中間試験及びこれまでの振り返り
 - 9週目 パートC-1：人工知能（AI）の基礎的理解
 - 10週目 パートC-2：人工知能（AI）を支える技術
 - 11週目 パートC-3：人工知能（AI）活用の周辺動向
 - 12週目 パートD-1：データ分析の手順と実践例
 - 13週目 パートD-2：商学分野でのデータサイエンスの応用
 - 14週目 パートD-3：観光分野でのデータサイエンスの応用
 - 15週目 まとめ・期末試験
 - 16週目 課題フィードバック
- 但し、やむを得ず、15 週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行います。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で使う資料などはLMS上に公開する。予習については、授業の終わりに自習のキーワードを示すので、そのキーワードについて1時間ほどかけて各自が調べておくこと。復習は特に大事であり、紹介した事柄を理解すると共に、次の授業までの一週間の間で1日1時間ほどを使って資料をノートにまとめ、分からないこと、疑問に思ったこと、学んだことに対する自分の考えを整理するようにしておくこと。

● 成績評価の方法・基準

授業内課題（20％）・中間試験（40％）・期末試験（40％）を得点化し、基礎成績点とする。授業時での態度や議論への取り組みも判断材料に含める。成績の評価は、授業週である15週のうち、11週以上授業に出席した学生を対象とする。また、試験を受けなかった者は評価の対象とならない。

● 履修上の留意点

1. 15週の内11週以上授業に出席した学生を評価対象とする。つまり、5回目の欠席で単位取得要件を満たさなくなる。また、出席及び試験に関して不正行為をした者は単位を得られない。
2. 本講義はオムニバス形式で実施されるため、クラスごとに学ぶ内容の順序が異なる。
3. 授業に関するお知らせ、資料の配布などは、LMSからおこなう。
4. スマホ・タブレット・PCなどのデバイスを用いて授業内課題に取り組んでもらう。そのため、デバイスのバッテリー状況、通信制限に気をつけること。
5. オンライン形式を実施する可能性もある。そのため、PCやインターネット通信環境を整備し、オンラインでの受講が可能な状態であることが望ましい。

● 課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については実施した後に、適宜、解説していく。中間・期末試験はフィードバックし、問題の解説をおこなう。

● テキスト

特になし。必要な資料は授業内で配布する。

● 参考書

滋賀大学データサイエンス学部編『大学生のためのデータサイエンス（I）改定版』（日本統計協会）

● 更新日付

2024/05/28 10:36

科目名	コンピュータ・リテラシーⅠ	科目コード	1157	単位数	3
担当者名	複数担当教員	開講セメスター	第3セメスター	開講年次	2年次
授業の方法	講義	到達目標	F,H	実務経験	無
ナンバリング	CCo301	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

ICT時代といわれる現在、ビジネスパーソンが商学・経営・経済分野で直面する様々な問題を効率的に解決するには、迅速かつ的確に関連情報を収集し、目的に応じてそれら进行处理・加工・分析・活用する能力がビジネスパーソン個々に求められています。そうした社会的要請を踏まえ、本講では、まずビジネスパーソンがビジネスシーンでコンピュータを使用する際に心得ておくべき情報倫理等の諸常識を学びます。続いて、今日、ビジネスシーンで多用されているWord 2019、Excel 2019を中心に基本的な操作方法と応用的機能について学び、実際的な例題処理を通じビジネスの実務や研究レベルで自在に活用できるように指導します。

● 到達目標

- ①情報倫理、コンピュータシステム、Windows 10、インターネット利用時のセキュリティー、文書作成等に関する基礎知識・操作技術等を習得する。
- ②Word 2019の基本的な操作方法を習得し、様々な文書を作成することができる。
- ③Excel 2019表計算機能を活用して情報を処理・加工・整理することができる。

● 授業内容

- 1週目 情報倫理とコンピュータシステム、Windows 10の基礎知識・基本操作、学内LAN等の利用方法等について
- 2週目 Word 2019による文書作成 基礎編（用紙設定、ページ設定、スタイル設定、文章入力、編集操作、インデント機能、文字装飾等）
- 3週目 Word 2019による文書作成 応用編 1（ヘッダー・フッター設定、段落操作、印刷設定等）
- 4週目 Word 2019による文書作成 応用編 2（作表・作図操作、文書検閲機能等）
- 5週目 Word 2019を使って基本文書作成練習（課題提出）
- 6週目 Word 2019を使ってビジネス文書作成練習（課題提出）
- 7週目 Excel 2019の基本的操作 1（ワークシートの構造、データの種類の入力・訂正・削除・編集、作表の基本テクニック等）
- 8週目 Excel 2019の基本的操作 2（計算の基礎テクニック、相対参照と絶対参照、表示形式等）
- 9週目 計算の基礎と関数 1（統計関数、順位処理関数、端数処理関数等）
- 10週目 計算の基礎と関数 2（IF関数、時間処理関数等）
- 11週目 計算の基礎と関数 3（参照関数、データベース関数、検査関数、文字列処理関数等）
- 12週目 Excel 2019を使って表計算練習問題 1 & 課題提出（表計算技能検定 2・3 級レベルの練習問題等）
- 13週目 Excel 2019を使って表計算練習問題 2 & 課題提出（表計算技能検定 1・2 級レベルの練習問題等）
- 14週目 Excel 2019を使った文書作成（単純な案内状、複雑なスケジュール表等）
- 15週目 Excel 2019とWord 2019の連携、Excel 2019の印刷テクニック等
- 16週目 課題等の講評を実施する。ただし、やむを得ず15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行う。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習と復習にあたっては、毎週の授業で提示される講義資料を熟読して理解を深めること。
- ・（予習）毎週の授業で提示される教材を熟読して課題に取り組む。(90分程度)
- ・（復習）毎週の授業で学んだ内容・技法について、再度教材を熟読して確認する。(90分程度)
- ・LMSに公開する各回の学習内容に合わせた講義資料を随時チェックし、内容をしっかり確認・理解したうえで、課された課題は漏れなく処理しておくこと。

● 成績評価の方法・基準

- ・成績評価に際しては、提出された課題等の結果で判定します。なお、授業中の課題に取り組む姿勢や受講態度等も都度チェックして成績判定要素とすることがあります。

● 履修上の留意点

- ・講義は原則として対面で実施し、授業教材の提示や課題提出はLMS等を通してやり取りします。
- ・成績評価は、原則として11週以上の授業に出席した学生を対象に行います。
- ・講義の受講時におけるマナー・注意事項について注意を受け、改善の兆しがない者は不合格となることがあります。
- ・学内ネットワーク利用ガイドブックを事前に読み理解しておくこと。
- ・本学のネットワークに参加するので、ID・PWを忘れないこと。

● 課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中に提出された課題等を教員が随時確認し、内容が不十分な場合は指導して再提出を求めることがあります。
- ・提出された課題（期末試験を含む）については、コメントを付して結果（評価）を本人に通知するなどフィードバックを行います。

● テキスト

- 「特になし」。LMSに講義資料を随時公開します。担当者の指示にしたがい利用してください。

● 参考書

- ・富士通エフ・オー・エム出版『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎 & Microsoft Excel 2019 基礎 & Microsoft PowerPoint 2019 基礎』（FOM出版）各2,000円
- ・高橋慈子他『情報倫理』（技術評論社）1,280円
- ・奥村晴彦・森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー(改訂第4版)』（技術評論社）1,480円
- ・岡本敏雄『よくわかる情報リテラシー（改訂新版）』（技術評論社）1,480円

● 更新日付

2024/02/01 04:57

科目名	コンピュータ・リテラシーⅡ	科目コード	1158	単位数	2
担当者名	複数担当教員	開講セメスター	第4セメスター	開講年次	2年次
授業の方法	講義	到達目標	F,H	実務経験	無
ナンバリング	CCo402	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

ICT時代といわれる現在、ビジネスパーソンが商学・経営・経済分野で直面する様々な課題を効率的に解決するには、迅速かつ的確に関連情報を収集し、目的に応じてそれら进行处理・加工・分析・活用する能力がビジネスパーソン個々に求められています。そうした社会的要請とコンピュータ・リテラシーⅠでの学習を踏まえ、本講では、まずPowerPoint 2019を自在に活用できるよう、実際の課題作成を通して基本操作と多彩な機能を習得します。続いてExcel 2019のグラフ機能、データベース機能をビジネスの実務レベルでしっかり学習します。その後、ビジネスデータの実践的な処理練習を通して応用テクニックを磨きます。

● 到達目標

①PowerPoint 2019を使ってプレゼンテーションに必要な資料を作成し、実際にその資料を使ったプレゼンテーションができる。②Excel 2019の表計算機能・グラフ機能・データベース機能を自在に使うことができる。③リテラシーⅠと上記の学習成果を通じて、MOS検定(Word/Excel/PowerPoint)合格に要求される基本技法が修得できる。

● 授業内容

- 1週目 PowerPoint 2019を使ったプレゼンテーション作成(1)(プレゼンテーションの要点等)
- 2週目 PowerPoint 2019を使ったプレゼンテーション作成(2)(スライド作成の基本)
- 3週目 PowerPoint 2019を使ったプレゼンテーション作成(3)(作図・作表機能等)
- 4週目 PowerPoint 2019を使ったプレゼンテーション作成(4)(アニメーションの設定等)
- 5週目 Excel 2019のグラフ機能 基礎編（基本的なグラフの作成、加工テクニック）
- 6週目 Excel 2019のグラフ機能 ビジネス応用編1（スパークライン、株価グラフ、散布図、バブルチャート等）
- 7週目 Excel 2019のグラフ機能 ビジネス応用編2（レーダーチャート、円グラフ、多重円グラフ、補助棒付円グラフ、2軸グラフ等）
- 8週目 Excel 2019のグラフ機能 ビジネス応用編3（ウォーターフォール図、ツリーマップ、箱ひげ図、階段グラフ、地図グラフ等）
- 9週目 Excel 2019のグラフ機能 ビジネス応用編4（ExcelグラフとWord文書の連携等）
- 10週目 Excel 2019のデータベース機能1（リストの構造、ソート機能、オートフィルタ機能、小計機能、テーブル機能等）
- 11週目 Excel 2019のデータベース機能2（ピボットテーブル、スライス分析、ダイス分析、ドリルスルー、ピボットグラフ、課題作成等）
- 12週目 ビジネスデータ処理の練習1（担当教員の提示する総合的課題作成と提出）
- 13週目 ビジネスデータ処理の練習2（担当教員の提示する総合的課題作成と提出）
- 14週目 ビジネスデータ処理の練習3（担当教員の提示する総合的課題作成と提出）
- 15週目 ビジネスデータ処理の練習4（担当教員の提示する総合的課題作成と提出）
- 16週目 課題等の講評を実施する。ただし、やむを得ず15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行う。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習と復習にあたっては、毎週の授業で提示される講義資料を熟読して理解を深めること。
- ・（予習）毎週の授業で提示される教材を熟読して課題に取り組む。(90分程度)
- ・（復習）毎週の授業で学んだ内容・技法について、再度教材を熟読して確認する。(90分程度)
- ・LMSに公開する各回の学習内容に合わせた講義資料を随時チェックし、内容をしっかり確認・理解したうえで、課された課題は漏れなく処理しておくこと。
- ・予習・復習等においては、学内無線LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントから入手した講義資料を活用して課題に取り組むこと。併せて学内無線LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントを経由してオンライン上の最新の経済社会データや情報サービスに数多くアクセスし、それらを効率的に利活用すること。

● 成績評価の方法・基準

- ・成績評価に際しては、提出された課題等の結果で判定します。なお、授業中の課題に取り組む姿勢や受講態度等也都度チェックして成績判定要素とすることがあります。

● 履修上の留意点

- ・講義は原則として対面で実施し、授業教材の提示や課題提出はLMSをとおしてやり取りします。
- ・成績評価は、原則として11週以上授業に出席した学生を対象に行います。
- ・講義の受講時におけるマナー・注意事項について注意を受け、改善の兆しがない者は不合格となることがあります。
- ・学内ネットワーク利用ガイドブックを事前に読み理解しておくこと。
- ・本学のネットワークに参加するので、ID・PWを忘れないこと。

● 課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中に提出された課題等を教員が随時確認し、内容が不十分な場合は、指導して再提出を求めることがあります。
- ・提出された課題（プレゼンテーション含む）については、結果(評価)を本人に通知するなどしてフィードバックを行います。

● テキスト

「特になし」。LMSに講義資料を随時公開します。担当者の指示にしたがい利用してください。

● 参考書

- ・富士通エフ・オー・エム出版『よくわかる Microsoft Word 2019 応用 & Microsoft Excel 2019 応用 & Microsoft PowerPoint 2019 応用』（FOM出版）各2,000円
- ・富士通エフ・オー・エム出版『よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル（FOM出版）1,100円

● 更新日付

2024/02/22 12:56

曜日	セメスター	1講目 09:00－09:50	2講目 10:10－11:00	3講目 11:10-12:00	4講目 13:00－13:50	5講目 14:00－14:50	6講目 15:10－16:00	7講目 16:10-17:00	8講目 17:10-18:00	
月	1	【異語】英会話Ⅰ Aクラス (2201) 複数担当教員				【異社】言語の科学A (301) 原子智樹	【異社】日本近代とアジアA (301) 舩田佳弘			
		【異語】英会話Ⅰ Bクラス (2202) 複数担当教員				【異社】国際社会と異文化交流A (405) ニールセン プライアン	【異社】国際経済の動きA (305) 澤内大輔			
		【異語】英会話Ⅰ Cクラス (2204) 複数担当教員					【異社】市民社会と自由A (403) 見附陽介			
		【異語】英会話Ⅰ Dクラス (2401) 複数担当教員								
		【異語】英会話Ⅰ Eクラス (2402) 複数担当教員								
		【異語】英会話Ⅰ Fクラス (402) 複数担当教員								
		【異語】中国語Ⅰ Aクラス (2305) 複数担当教員								
		【異語】中国語Ⅰ Bクラス (2306) 複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅰ 初級クラス (2404) 複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅰ 中級クラス (2403) 複数担当教員								
	【異語】韓国語Ⅰ 上級クラス (2203) 複数担当教員									
	3	【専基】経済システム理論Ⅰ Aクラス (303) 深澤史樹				【専関】現代韓国経済論 (2403) 李炯直	【異語】英会話・作文Ⅰ Aクラス (2201・405) 複数担当教員			
【専基】経済システム理論Ⅰ Bクラス (405) 伊藤昭男					【専関】現代中国論A (2305) 佐藤千歳	【異語】英会話・作文Ⅰ Bクラス (2202・502) 複数担当教員				
【専基】経済システム理論Ⅰ Cクラス (301) 佐藤博樹					【専関】特殊講義Ⅰ(職業キャリアデザイン) (2306) 複数担当教員	【異語】中国語会話・作文Ⅰ Aクラス (2401) 複数担当教員				
						【異語】中国語会話・作文Ⅰ Bクラス (2404) 複数担当教員				
5	【商専】企業経営論Ⅱ (305) 村松祐二				【専関】経済法 (2404) 岡本直貴	【異語】韓国語会話・作文Ⅰ Aクラス (2402) 李鳳				
					【商専】アカウンティングⅡ (2402) 中西良之	【専関】経済理論A (303) 深澤史樹				
					【観専】観光関連法規 (305) 山田勲之 ※(注1)同時履修①	【専関】比較経済論A (2403) 李炯直				
火	1	【異語】韓国語Ⅰ 上級クラス (2401) 複数担当教員				【異社】質的社会調査論A(303) 佐藤千歳※(注5)	【異社】文化心理学A (305) 玉井航太			
			【交留】日本語作文Ⅰ (402) 複数担当教員			【異社】国際社会と安全保障A (301) 坂口可奈	【異社】哲学と社会思想A (303) 見附陽介			
	3	【専関】東アジア政治思想A (2404) 佐藤千歳	【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Aクラス (2203) 郭倩		【異語】韓国語会話・作文Ⅰ Bクラス (2402) 李鳳					
		【専関】特殊講義Ⅰ(経営学の基礎) (2306) 堤悦子	【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Bクラス (2204) 千葉里美		【教職】教育原理 (2404) 山口晴敬					
		【専関】特殊講義Ⅰ(文学からみた北海道・東北) (2403) 保坂智	【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Cクラス (2201) 佐藤博樹							
			【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Dクラス (2202) 相浦宣徳							
	5	【商専】管理会計論Ⅱ―橋元理恵 今期休講				【専関】アジア比較文化論 (2401) 舩田佳弘	【観専】観光地理論Ⅱ (2301) 池ノ上真一			
			【APQ】旅行業務論Ⅰ (2305) 加藤由紀子 ※(注1)同時履修①			【専関】法社会の基礎(日本国憲法を含む) (305) 種田健一郎	【商専】コマース研究ゼミナールⅡ(いずれも2単位)			
			【APQ】PAL(専門職韓国語)Ⅰ (2402) 李鳳			【APQ】旅行業務論Ⅱ (2305) 加藤由紀子 ※(注1)同時履修①	(2202) 相浦宣徳	(2305) 中西良之		
				【商専】人的資源管理論Ⅱ (2306) 堤悦子			(2203) 竹野学	(504) 深澤史樹		
					【APQ】通商実務論Ⅰ (2403) TAC ※(注2)同時履修②	(604) 李炯直	(403) 松原英二			
						(601) 坂口可奈	(401) 村松祐二			
						(2306) 堤悦子	(2401) 澤内大輔			
							※橋元理恵 担当 今期休講			
	7						【商専】コマース研究ゼミナールⅣ(いずれも2単位)			
							(2202) 相浦宣徳	(2305) 中西良之		
							(2203) 竹野学	(504) 深澤史樹		
							(604) 李炯直	(403) 松原英二		
							(601) 坂口可奈	(401) 村松祐二		
							(2306) 堤悦子	(2401) 澤内大輔		
水	1	【異語】英会話Ⅰ Aクラス (2201) 複数担当教員				【異社】社会文化ゼミナール(いずれも2単位)	【専基】データサイエンス・AI論 Aクラス (301) 複数担当教員※(注3)			
		【異語】英会話Ⅰ Bクラス (2202) 複数担当教員				(2403) 坂口可奈	【専基】データサイエンス・AI論 Bクラス (303) 複数担当教員※(注3)			
		【異語】英会話Ⅰ Cクラス (2204) 複数担当教員				(2201) 佐藤千歳	【専基】データサイエンス・AI論 Cクラス (305) 複数担当教員※(注3)			
		【異語】英会話Ⅰ Dクラス (2401) 複数担当教員				(2305) 玉井航太				
		【異語】英会話Ⅰ Eクラス (2402) 複数担当教員				(2202) 原子智樹				
		【異語】英会話Ⅰ Fクラス (402) 複数担当教員				(2402) 保坂智				
		【異語】中国語Ⅰ Aクラス (2305) 複数担当教員				(2204) 舩田佳弘				
		【異語】中国語Ⅰ Bクラス (2306) 複数担当教員				(2401) 見附陽介				
		【異語】韓国語Ⅰ 初級クラス (2404) 複数担当教員				(2404) 竹野 学				
		【異語】韓国語Ⅰ 中級クラス (2403) 複数担当教員				(2306) 益子洋人				
	3	【専基】経済と社会の仕組みⅠ Aクラス (305) 複数担当教員				【専関】現代中国経済論 (403) 伊藤昭男	【異語】英会話・作文Ⅰ Aクラス (2201・405) 複数担当教員			
		【専基】経済と社会の仕組みⅠ Bクラス (303) 複数担当教員				【専関】特殊講義Ⅰ(暮らしと金融)(301) 松原英二※ (注4)	【異語】英会話・作文Ⅰ Bクラス (2202・502) 複数担当教員			
		【専基】経済と社会の仕組みⅠ Cクラス (301) 複数担当教員				【専関】特殊講義Ⅰ(アジア史) (303) 山田勲之	【異語】中国語会話・作文Ⅰ Aクラス (2401) 複数担当教員			
							【異語】中国語会話・作文Ⅰ Bクラス (2404) 複数担当教員			
	5	【観専】観光事業論Ⅱ (405) 佐藤博樹				【商専】原価計算論 (305) 中西良之	【専関】応用経済A (2403) 李炯直			
		【観専】観光政策論Ⅱ (403) 深澤史樹				【教職】商業科教育法Ⅰ (402) 高橋秀幸	【専関】特殊講義Ⅰ(韓国言語) (2305) 水野俊平			
			【APQ】情報管理論Ⅰ Aクラス (2203) 富士通テックアカデミー				【専関】特殊講義Ⅲ(東アジア観光A)(2306) 郭倩			
							【APQ】税務会計論Ⅱ (403) 中西良之			
	7					【APQ】情報管理論Ⅲ (2203) 富士通テックアカデミー				
	木	1	【異語】韓国語Ⅰ 上級クラス (2401) 複数担当教員				【異社】論理と思考A (305) 麻生尚志			
【異社】日本文学と日本語A (2404) 保坂智						【異社】東アジアの動きA (403) 舩田佳弘				
		【交留】日本語会話Ⅰ (402) 複数担当教員			【異社】日本文化と東アジアA (301) 李炯直					
3		【教職】生徒・進路指導論 (403) 益子洋人	【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Eクラス (2203) 田辺隆司		【異語】韓国語会話・作文Ⅰ Bクラス (2402) 李鳳					
			【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Fクラス (2204) 千葉里美		【教職】国際関係論(政治学を含む) (2403) 坂口可奈					
			【専基】コンピュータ・リテラシーⅠ Gクラス (2202) 相浦宣徳							
5		【商専】経営分析論Ⅱ―橋元理恵 今期休講				【専関】特殊講義Ⅲ(観光発展史A) (303) 郭倩	【商専】物流システム論Ⅱ (2202) 相浦宣徳			
		【商専】マーケティングⅡ (305) 伊藤友章				【APQ】PAL(TOEIC英語)Ⅰ (405) ニールセン プライアン	【観専】観光研究ゼミナールⅡ(いずれも2単位)			
		【観専】観光産業論Ⅱ (2306) 伊藤寛幸				【APQ】PAL(専門職中国語)Ⅰ (2401) 複数担当教員	(405) 伊藤昭男	(2301) 千葉里美		
		【観専】観光情報学Ⅱ (2201) 三田村保				【教職】総合的な学習の時間の指導法 (2305) 岡積義雄	(2203) 三田村保	(2306) 山田勲之		
		【観専】観光振興論Ⅱ (2305) 山田勲之				【教職】特別支援教育(2305) 五浦哲也	(2201) 佐藤博樹	(2305) 池ノ上真一		
							(2401) 伊藤寛幸	(2302) 郭倩		
7			【APQ】PAL(専門職韓国語)Ⅲ (2402) 李鳳			【APQ】PAL(専門職中国語)Ⅲ (2403) 複数担当教員	【観専】観光研究ゼミナールⅣ(いずれも2単位)			
						【教職】教育実習Ⅱ (2404) 山口晴敬	(405) 伊藤昭男	(2301) 千葉里美		
							(2203) 三田村保	(2306) 山田勲之		
							(2201) 佐藤博樹	(2305) 池ノ上真一		
金		1	【異語】英会話Ⅰ Aクラス (2201) 複数担当教員				【異社】近代社会と倫理学A (301) 麻生尚志			
			【異語】英会話Ⅰ Bクラス (2202) 複数担当教員				【異社】異文化と言語A (405) 原子智樹			
	【異語】英会話Ⅰ Cクラス (2204) 複数担当教員									
	【異語】英会話Ⅰ Dクラス (2401) 複数担当教員									
	【異語】英会話Ⅰ Eクラス (2402) 複数担当教員									
	【異語】英会話Ⅰ Fクラス (402) 複数担当教員									
	【異語】中国語Ⅰ Aクラス (2305) 複数担当教員									
	【異語】中国語Ⅰ Bクラス (2306) 複数担当教員									
	【異語】韓国語Ⅰ 初級クラス (2404) 複数担当教員									
	【異語】韓国語Ⅰ 中級クラス (2403) 複数担当教員									
	3		【専関】比較企業形態論 (301) 伊藤昭男			【専関】日本経済論A (303) 竹野学	【APQ】社会行政論Ⅰ (305) TAC			
			【教職】情報社会と統計 (2203) 玉井航太			【専関】社会調査方法論A (305) 玉井航太				
			【専関】環境科学論 (305) 池ノ上真一							
	5	【商専】金融システム論Ⅱ (303) 松原英二				【APQ】通商実務論Ⅱ (2403) TAC ※(注2)同時履修②	【APQ】社会行政論Ⅲ (2305) TAC			
		【商専】国際経営論Ⅱ (403) 菊地 均								
	7	【観専】観光学Ⅱ (405) 千葉里美								
	土	3		【APQ】PAL(TOEIC英語)Ⅲ (502) 原子智樹						
		5	【教職】特別活動論 (403) 益子洋人	【教職】教育心理学 (403) 益子洋人						
				【教職】公民科教育法Ⅰ (2404) 山口晴敬			【教職】教育相談論 (403) 益子洋人			
	備考	1	(1)複数担当教員 ・英会話Ⅰ/A・B・C・D・E・F(IAY) ・英会話・作文Ⅰ/A・B(ニールセン プライアン、原子智樹) ・中国語Ⅰ/(蘇林、劉玗) ・データサイエンス・AI論/A・B・C(玉井航太、見附陽介、澤内大輔、三田村保)	・中国語会話・作文Ⅰ/(蘇林、劉玗) ・PAL(専門職中国語)Ⅰ・Ⅲ(蘇林、劉玗) ・韓国語Ⅰ/A・B・C(水野俊平、崔碩鎭、金仁子) ・経済と社会の仕組みⅠ/A・B・C(村松祐二、澤内大輔、竹野学)			(3)同時履修	・専門ゼミナールを履修する場合、担当者のセット科目を同時に履修すること。(詳細はガイダンス資料参照) ・次の【APQ】旅行業務論Ⅰ・Ⅱ、通商実務論Ⅰ・Ⅱを履修する場合は、該当科目を同時に履修すること。 ①旅行業務論Ⅰ・Ⅱ、観光関連法規(計3科目6単位)(注1) 観光関連法規単独の履修は可。 ②通商実務論Ⅰ・Ⅱ。(計2科目4単位)(注2)		
(2)集中講義 ・2024(令和6)年度前期に該当科目はありません。						(4)学年に縛りのある科目	・2024(令和6)年度入学生のみ履修可能:データサイエンス・AI論(注3) ・2023(令和5)年度入学生のみ履修可能:特殊講義Ⅰ(暮らしと金融)(注4) ・質的社会調査論A:令和5年以前入学生はIT&メディアAとして開講(注5)			

曜日	セメスター	1講目 09:00－09:50	2講目 10:10－11:00	3講目 11:10-12:00	4講目 13:00－13:50	5講目 14:00－14:50	6講目 15:10－16:00	7講目 16:10-17:00	8講目 17:10-18:00	
月	2	【異語】中国語Ⅱ Aクラス（2305）複数担当教員			【異社】言語の科学B Aクラス（303）原子智樹		【異社】日本近代とアジアB（301）舩田佳弘			
		【異語】中国語Ⅱ Bクラス（2306）複数担当教員			【異社】国際社会と異文化交流B（405）ニールセン・ブライアン		【異社】国際経済の動きB（305）澤内大輔			
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Aクラス（2404）複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Bクラス（2403）複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅱ 上級クラス（2401）複数担当教員								
		【異社】異文化と言語B Aクラス（303）原子智樹								
	4	【商専】金融システム論Ⅰ（305）松原英二			【専基】経済システム理論Ⅱ Aクラス（2305）深澤史樹		【異語】英会話・作文Ⅱ（2204）ニールセン・ブライアン			
		【観専】観光産業論Ⅰ（405）伊藤寛幸			【専基】経済システム理論Ⅱ Bクラス（406）伊藤昭男		【異語】中国語会話・作文Ⅱ（2403）複数担当教員			
			【専関】民法基礎（403）石月真樹		【専基】経済システム理論Ⅱ Cクラス（301）佐藤博樹		【異語】韓国語会話・作文Ⅱ（2402）李鳳			
							【専関】特殊講義Ⅱ(西洋・東洋の思考)(303) 伊藤昭男			
							【観専】観光文化論（2306）山田勅之			
	6	【専関】経済理論B（406）深澤史樹			【専関】商法基礎（407）中元啓司		【専関】応用経済B（405）李炯直			
【専関】地域コミュニティ論（301）玉井航太			【商専】国際金融論（305）松原英二							
火	2	【異語】韓国語Ⅱ 上級クラス（2401）複数担当教員			【異社】質的社会調査論B（2403）佐藤千歳※(注3)		【異社】文化心理学B（305）玉井航太			
		【教職】教師論（2402）益子洋人			【異社】国際社会と安全保障B（301）坂口可奈		【異社】哲学と社会思想B（303）見附陽介			
		【交留】日本語作文Ⅱ（402）複数担当教員					【異社】現代社会と情報ネットワークB（301）三田村保			
	4	【商専】人的資源管理論Ⅰ（2306）堤悦子			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Aクラス（2203）郭倩		【観専】観光地理論Ⅰ（2404）池ノ上真一			
		【商専】管理会計論Ⅰ（604）橋元理恵			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Bクラス（2204）池ノ上真一		【商専】コマース研究ゼミナールⅠ(いずれも2単位)			
		【観専】観光学Ⅰ（303）千葉里美			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Cクラス（2201）佐藤博樹		(2202) 相浦宣徳 (2305) 中西良之			
			【専関】東アジア政治思想B（2403）佐藤千歳		【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Dクラス（2202）田辺隆司		(2203) 竹野学 (504) 深澤史樹			
			【専関】特殊講義Ⅱ(日本古典文学の風景)(502) 保坂智				(2402) 李炯直 (2403) 松原英二			
			【APQ】税務会計論Ⅰ（301）中西良之				(601) 坂口可奈 (407) 村松祐二			
							(2306) 堤悦子 (405) 澤内大輔			
							※橋元理恵 担当クラス 今期休講			
	6				【専関】特殊講義Ⅱ(韓国歴史)(405) 水野俊平		【商専】コマース研究ゼミナールⅢ(いずれも2単位)			
					【商専】企業経営戦略論（305）村松祐二		(2202) 相浦宣徳 (2305) 中西良之			
					【商専】アントレプレナーシップ論（2306）堤悦子		(2203) 竹野学 (504) 深澤史樹			
					【観専】観光ビジネス論（303）千葉里美		(2402) 李炯直 (2403) 松原英二			
							(601) 坂口可奈 (407) 村松祐二			
							(2306) 堤悦子 (405) 澤内大輔			
							※橋元理恵 担当クラス 今期休講			
	8				【教職】教職実践演習(高)(2401) 山口晴敬		【教職】教育実習Ⅲ（2401）山口晴敬			
水	2	【異語】英会話Ⅲ Aクラス（2203）複数担当教員※(注1)			【異社】異文化ゼミナール(いずれも2単位)		【異社】日本文学と日本語B（506）保坂智			
		【異語】英会話Ⅲ Bクラス（2204）複数担当教員※(注1)			(2305) 郭倩		【異社】市民社会と自由B（305）見附陽介			
		【異語】中国語Ⅱ Aクラス（2305）複数担当教員			(2202) 佐藤千歳					
		【異語】中国語Ⅱ Bクラス（2306）複数担当教員			(2404) 玉井航太					
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Aクラス（2404）複数担当教員			(407) 原子智樹					
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Bクラス（2403）複数担当教員			(504) 保坂智					
					(2402) 舩田佳弘					
					(2403) 見附陽介					
	4	【商専】マーケティングⅠ（301）伊藤友章			【専基】経済と社会の仕組みⅡ Aクラス（301）複数担当教員		【異語】英会話・作文Ⅱ（2204）ニールセン・ブライアン			
		【観専】観光事業論Ⅰ（303）伊藤寛幸			【専基】経済と社会の仕組みⅡ Bクラス（406）複数担当教員		【異語】中国語会話・作文Ⅱ（2403）複数担当教員			
			【専関】現代中国論B（2202）佐藤千歳		【専基】経済と社会の仕組みⅡ Cクラス（405）複数担当教員		【異語】韓国語会話・作文Ⅱ（2402）李鳳			
							【専関】特殊講義Ⅱ(シンガポール地域研究)(406) 坂口可奈			
	6							【教職】教育経営論（2401）山口晴敬		
			【商専】中小企業経営論（305）村松祐二		【商専】財務諸表論（403）中西良之		【専関】社会心理学（405）細野昌和			
			【観専】旅行企画論（2401）池ノ上真一		【商専】国際ビジネスコミュニケーション（2306）堤悦子		【専関】比較経済論B（303）李炯直			
					【観専】ツーリズム研究（303）山田勅之		【APQ】税務会計論Ⅲ（403）中西良之			
				【APQ】情報管理論Ⅱ Aクラス（2203）富士通フロンティア		【APQ】情報管理論Ⅱ Bクラス（2203）富士通フロンティア				
8				【教職】商業科教育法Ⅱ（2201）高橋秀幸						
木	2	【異社】東アジアの動きB（303）舩田佳弘			【異社】論理と思考B（305）麻生尚志		【教職】ICTを活用した教育の理論及び方法（2204）奥村稔			
		【異社】日本文化と東アジアB（506）保坂智			【異社】言語の科学B Bクラス(301) 原子智樹					
		【異語】韓国語Ⅱ 上級クラス（2401）複数担当教員								
			【交留】日本語会話Ⅱ（402）複数担当教員							
	4	【商専】経営分析論Ⅰ（604）橋元理恵			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Eクラス（2203）相浦宣徳		【商専】物流システム論Ⅰ（2203）相浦宣徳			
		【観専】観光振興論Ⅰ（405）山田勅之			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Fクラス（2204）伊藤寛幸		【観専】観光研究ゼミナールⅠ(いずれも2単位)			
		【観専】観光政策論Ⅰ（301）深澤史樹			【専基】コンピュータ・リテラシーⅡ Gクラス（2202）池ノ上真一		(303) 伊藤昭男 (2301) 千葉里美			
			【専関】環境経済論（305）澤内大輔				(2202) 三田村保 (2306) 山田勅之			
6						(2201) 佐藤博樹 (505) 池ノ上真一				
						(2401) 伊藤寛幸 (2302)郭倩				
		【観専】地域観光論（606）伊藤昭男		【専関】北海道経済論（2305）竹野学		【観専】観光研究ゼミナールⅢ(いずれも2単位)				
				【専関】特殊講義Ⅳ(観光発展史B)(303) 郭倩		(303) 伊藤昭男 (2301) 千葉里美				
8				【APQ】PAL(TOEIC英語)Ⅱ（405）ニールセン・ブライアン		(2202) 三田村保 (2306) 山田勅之				
				【APQ】PAL(専門職中国語)Ⅱ（2401）複数担当教員		(2201) 佐藤博樹 (505) 池ノ上真一				
				【APQ】PAL(専門職韓国語)Ⅱ（2402）李鳳		(2401) 伊藤寛幸 (2302)郭倩				
金	2	【異語】英会話Ⅲ Aクラス（2203）複数担当教員※(注1)			【異社】近代社会と倫理学B（305）麻生尚志					
		【異語】英会話Ⅲ Bクラス（2204）複数担当教員※(注1)			【異社】異文化と言語B Bクラス(506) 原子智樹					
		【異語】中国語Ⅱ Aクラス（2305）複数担当教員								
		【異語】中国語Ⅱ Bクラス（2306）複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Aクラス（2404）複数担当教員								
		【異語】韓国語Ⅱ 中級Bクラス（2403）複数担当教員								
	4	【商専】国際経営論Ⅰ（406）菊地均			【専関】日本経済論B（2402）竹野学		【APQ】社会行政論Ⅱ（2306）TAC			
		【商専】企業経営論Ⅰ（305）村松祐二			【専関】社会調査方法論B（301）玉井航太					
6	【観専】観光情報学Ⅰ（301）三田村保			【商専】アカウンティングⅠ（303）中西良之						
		【専関】特殊講義Ⅰ(ファイナンシャルプランニング)(606) 松原英二※								
土	4	【教職】教育方法論（2402）益子洋人		【観専】観光調査論（2403）三田村保		【専関】公共経済論（303）阿部秀明				
				【APQ】社会行政論Ⅴ（406）TAC		【APQ】社会行政論Ⅳ（406）TAC				
	6	【教職】公民科教育法Ⅱ（2401）山口晴敬		【教職】教育実習Ⅰ（2401）山口晴敬						
備考	(1)複数担当教員 ・英会話Ⅲ(ニールセン・ブライアン、IAY マクガイヤー・洋子) ・中国語Ⅱ(蘇林、劉玗) ・中国語会話・作文Ⅱ(蘇林、劉玗)				(2)集中講義 (3)同時開講 (4)学年に縛りのある科目		・2024(令和6)年度後期に該当科目はありません。 ・専門ゼミナールを履修する場合、担当者のセット科目を同時に履修することが必要な場合があります。 ・2024(令和6)年度入学生のみ履修可能:英会話Ⅲ(履修条件有)(注1) ・2023(令和5)年度入学生のみ履修可能:特殊講義Ⅰ(ファイナンシャルプランニング)(注2) ・質的社会調査論B:令和5年以前入学生はIT&メディアBとして開講(注3)			
	・PAL(専門職中国語)Ⅱ・Ⅳ(蘇林、劉玗) ・韓国語Ⅱ(水野俊平、崔碩鎮、金仁子) ・経済と社会の仕組みⅡ/A・B・C(伊藤寛幸、澤内大輔、竹野学)									

北 海 商 科 大 学 学 則 北海商科大学大学院学則 学 位 規 則 及 び 諸 規 程

令和 6 年 4 月 1 日改定

北 海 商 科 大 学

目 次

I 北海商科大学

北海商科大学学則	p. 1
北海商科大学入学試験規程	p.27
北海商科大学編入学規程	p.29
北海商科大学海外留学規程	p.30
北海商科大学研究生規程	p.32
北海商科大学科目等履修生規程	p.34
北海商科大学授業料等に関する規程	p.36
北海商科大学表彰規程	p.38
北海商科大学学生の懲戒に関する規程	p.39
北海商科大学奨学規程	p.43
北海商科大学教育振興資金管理運営規程	p.44
北海商科大学教職課程履修規程	p.46
北海商科大学商学部の各学科における人材養成並びに教育研究上の目的に関する規程	p.52
北海商科大学所属学科決定に関する規程	p.53
北海商科大学履修規程	p.54
北海商科大学センター協議会規程	p.57
北海商科大学教育研究評価委員会規程	p.58
北海商科大学FD委員会規程	p.60
北海商科大学事務研修(SD)委員会規程	p.61
北海商科大学教務センター規程	p.62
北海商科大学学術発展センター規程	p.64
北海商科大学入試・広報センター規程	p.65
北海商科大学学生支援センター規程	p.67
北海商科大学キャリア支援センター規程	p.69
北海商科大学国際交流センター規程	p.70
北海商科大学の個人情報の取扱いについて(プライバシー・ポリシー)	p.72
北海商科大学ハラスメント防止委員会に関する規程	p.74
北海商科大学における公的研究費の管理・監査等に関する規程	p.76
北海商科大学危機管理に関する規程	p.80
北海商科大学学長候補選挙規程	p.83
北海商科大学学部長候補選出に関する規程	p.87
北海商科大学センター長候補選出・職務規程	p.88
北海商科大学名誉教授等称号授与規程	p.89
北海商科大学衛生委員会規程	p.91
北海商科大学及び北海学園大学大学院法務研究科校舎消防計画	p.93
北海商科大学開発政策研究所規程	p.108
北海商科大学情報セキュリティ規程	p.110
北海商科大学情報セキュリティ対策基準	p.114

II 北海商科大学大学院

北海商科大学大学院学則	p.119
北海商科大学大学院商学研究科規則	p.134
北海商科大学大学院研究生規程	p.136
北海商科大学大学院科目等履修生規程	p.137
北海商科大学大学院授業料等に関する規程	p.138
北海商科大学大学院担当教員資格基準に関する規程	p.140
北海商科大学大学院研究科長の任期及び選考並びに職務に関する規程	p.141
北海商科大学大学院学位論文審査手数料の取り扱いに関する規程	p.142

III 北海商科大学学位規則

北海商科大学学位規則	p.145
学位論文(論文博士)提出要項	p.151

別表 1 (1) 商学部・商学科

1. 異文化交流科目

区分	授業科目	年次及び単位数								備考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
語学	英会話Ⅰ	9								9	(卒業要件) 必修科目（語学9単位以上、 専門基礎科目17単位以上、専門科目（ゼミナール科目）4単位以上）を含み、合計124単位以上（ただし、自由科目を除く。）
	英会話Ⅱ		9							9	
	英会話Ⅲ		6							6	
	英会話・作文Ⅰ			6						6	
	英会話・作文Ⅱ				4					4	
	中国語Ⅰ	9								9	
	中国語Ⅱ		9							9	
	留学中国語	12								12	
	海外中国語		15							15	
	中国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	中国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	韓国語Ⅰ	9								9	
	韓国語Ⅱ		9							9	
	留学韓国語	12								12	
	海外韓国語		15							15	
	韓国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	韓国語会話・作文Ⅱ				4					4	
社会文化	論理と思考A	3								3	
	論理と思考B		3							3	
	近代社会と倫理学A	3								3	
	近代社会と倫理学B		3							3	
	哲学と社会思想A	3								3	
	哲学と社会思想B		3							3	
	市民社会と自由A	3								3	
	市民社会と自由B		3							3	
	日本近代とアジアA	3								3	
	日本近代とアジアB		3							3	
	東アジアの動きA	3								3	
	東アジアの動きB		3							3	
	日本文化と東アジアA	3								3	
	日本文化と東アジアB		3							3	
	日本文学と日本語A	3								3	
	日本文学と日本語B		3							3	
	国際経済の動きA	3								3	
	国際経済の動きB		3							3	
	言語の科学A	2								2	
	言語の科学B		2							2	
	国際社会と異文化交流A	2								2	
	国際社会と異文化交流B		2							2	
	異文化と言語A	2								2	
	異文化と言語B		2							2	
	国際社会と安全保障A	2								2	
	国際社会と安全保障B		2							2	
	スポーツの科学				2					2	
	中国社会文化特講	1								1	
	韓国社会文化特講	1								1	
	社会と経済（中国）			2						2	
	社会と経済（韓国）			2						2	
	キャリアリテラシー	3								3	
	地域比較開発論	3								3	
	都市比較デザインの現状	3								3	
	現代社会と情報ネットワークA	3								3	
	現代社会と情報ネットワークB		3							3	
	文化心理学A	3								3	
	文化心理学B		3							3	
	質的社会調査論A	2								2	
	質的社会調査論B			2						2	
	東アジア比較開発A	2								2	
	東アジア比較開発B			2						2	
	異文化コミュニケーションA	1								1	
	異文化コミュニケーションB	1								1	
	異文化コミュニケーションC			1						1	
	異文化コミュニケーションD			1						1	
	異文化コミュニケーションE				1					1	
異文化コミュニケーションF				1					1		
異文化コミュニケーションG					1				1		
異文化コミュニケーションH					1				1		
社会文化ゼミナール	2								2		
異文化ゼミナール			2						2		

2. 専門基礎科目

区分	授業科目	年次及び単位数									備考
		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門基礎科目	データサイエンス・AI論	2								2	17単位以上
	経済と社会の仕組みⅠ			3						3	
	経済と社会の仕組みⅡ				2					2	
	経済システム理論Ⅰ			3						3	
	経済システム理論Ⅱ				2					2	
	コンピュータ・リテラシーⅠ			3						3	
	コンピュータ・リテラシーⅡ				2					2	
	小計	2	0	9	6	0	0	0	0	17	

3. 専門関連科目

区分	授業科目	年次及び単位数								備考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			計
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門関連科目	経済理論A					3				3	
	経済理論B						2			2	
	応用経済A					3				3	
	応用経済B						2			2	
	北海道経済論						2			2	
	日本経済論A			2						2	
	日本経済論B				2					2	
	現代中国経済論			2						2	
	現代韓国経済論			2						2	
	比較企業形態論			2						2	
	アジア比較文化論					2				2	
	アメリカ比較文化論						2			2	
	比較経済論A					2				2	
	比較経済論B						2			2	
	国際関係論(政治学を含む)			2						2	
	環境科学論			2						2	
	環境経済論				2					2	
	公共経済論						2			2	
	労働経済論			2						2	
	情報社会と統計			2						2	
	社会心理学							2		2	
	地域交通体系論			2						2	
	都市計画論			2						2	
	民法基礎					2				2	
	商法基礎						2			2	
	経済法						2			2	
	労働法						2			2	
	法社会の基礎（日本国憲法を含む）						2			2	
	現代アメリカ政治A			2						2	
	現代アメリカ政治B				2					2	
	量的社会調査方法論A			2						2	
	量的社会調査方法論B				2					2	
	地域コミュニティ論							2		2	
	現代中国論A			2						2	
	現代中国論B				2					2	
	東アジア政治思想A			2						2	
	東アジア政治思想B				2					2	
	特殊講義Ⅰ						1～8				
	特殊講義Ⅱ						1～8				
	特殊講義Ⅲ						1～8				
	特殊講義Ⅳ						1～8				
	特別ゼミナールⅠ						1～8				
	特別ゼミナールⅡ						1～8				
	特別ゼミナールⅢ						1～8				
	特別ゼミナールⅣ						1～8				

別表 1 (2) 商学部・観光産業学科

1. 異文化交流科目

区分	授業科目	年次及び単位数								計	備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
語 学	英会話Ⅰ	9								9	(卒業要件) 必修科目（語学9単位以上、 専門基礎科目17単位以上、専門科目（ゼミナール科目）4単位以上）を含み、合計124単位以上（ただし、自由科目を除く。）
	英会話Ⅱ		9							9	
	英会話Ⅲ		6							6	
	英会話・作文Ⅰ			6						6	
	英会話・作文Ⅱ				4					4	
	中国語Ⅰ	9								9	
	中国語Ⅱ		9							9	
	留学中国語	12								12	
	海外中国語		15							15	
	中国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	中国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	韓国語Ⅰ	9								9	
	韓国語Ⅱ		9							9	
	留学韓国語	12								12	
社 会 と 文 化	海外韓国語		15							15	
	韓国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	韓国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	論理と思考A	3								3	
	論理と思考B		3							3	
	近代社会と倫理学A	3								3	
	近代社会と倫理学B		3							3	
	哲学と社会思想A	3								3	
	哲学と社会思想B		3							3	
	市民社会と自由A	3								3	
	市民社会と自由B		3							3	
	日本近代とアジアA	3								3	
	日本近代とアジアB		3							3	
	東アジアの動きA	3								3	
東アジアの動きB		3							3		
日本文化と東アジアA	3								3		
日本文化と東アジアB		3							3		
日本文学と日本語A	3								3		
日本文学と日本語B		3							3		
国際経済の動きA	3								3		
国際経済の動きB		3							3		
言語の科学A	2								2		
言語の科学B		2							2		
国際社会と異文化交流A	2								2		
国際社会と異文化交流B		2							2		
異文化と言語A	2								2		
異文化と言語B		2							2		
国際社会と安全保障A	2								2		
国際社会と安全保障B		2							2		
スポーツの科学				2					2		
中国社会文化特講	1								1		
韓国社会文化特講	1								1		
社会と経済（中国）		2							2		
社会と経済（韓国）		2							2		
キャリアリテラシー	3								3		
地域比較開発論	3								3		
都市比較デザインの現状	3								3		
現代社会と情報ネットワークA	3								3		
現代社会と情報ネットワークB		3							3		
文化心理学A	3								3		
文化心理学B		3							3		
質的社会調査論A	2								2		
質的社会調査論B		2							2		
東アジア比較開発A	2								2		
東アジア比較開発B		2							2		
異文化コミュニケーションA	1								1		
異文化コミュニケーションB	1								1		
異文化コミュニケーションC		1							1		
異文化コミュニケーションD		1							1		
異文化コミュニケーションE			1						1		
異文化コミュニケーションF			1						1		
異文化コミュニケーションG				1					1		
異文化コミュニケーションH				1					1		
社会文化ゼミナール	2								2		
異文化ゼミナール		2							2		

2. 専門基礎科目

区 分	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			計
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専 門 基 礎 科 目	データサイエンス・AI論	2								2	17単位以上
	経済と社会の仕組みⅠ			3						3	
	経済と社会の仕組みⅡ				2					2	
	経済システム理論Ⅰ			3						3	
	経済システム理論Ⅱ				2					2	
	コンピュータ・リテラシーⅠ			3						3	
	コンピュータ・リテラシーⅡ				2					2	
	小計	2	0	9	6	0	0	0	0	17	

3. 専門関連科目

区分	授業科目	年次及び単位数									備考
		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門関連科目	経済理論A					3				3	
	経済理論B						2			2	
	応用経済A					3				3	
	応用経済B						2			2	
	北海道経済論						2			2	
	日本経済論A			2						2	
	日本経済論B				2					2	
	現代中国経済論			2						2	
	現代韓国経済論			2						2	
	比較企業形態論			2						2	
	アジア比較文化論					2				2	
	アメリカ比較文化論						2			2	
	比較経済論A					2				2	
	比較経済論B						2			2	
	国際関係論(政治学を含む)			2						2	
	環境科学論			2						2	
	環境経済論				2					2	
	公共経済論						2			2	
	労働経済論			2						2	
	情報社会と統計			2						2	
	社会心理学							2		2	
	地域交通体系論			2						2	
	都市計画論			2						2	
	民法基礎				2					2	
	商法基礎						2			2	
	経済法						2			2	
	労働法						2			2	
	法社会の基礎（日本国憲法を含む）						2			2	
	現代アメリカ政治A			2						2	
	現代アメリカ政治B				2					2	
	量的社会調査方法論A			2						2	
	量的社会調査方法論B				2					2	
	地域コミュニティ論							2		2	
	現代中国論A			2						2	
	現代中国論B				2					2	
	東アジア政治思想A			2						2	
東アジア政治思想B				2					2		
特殊講義Ⅰ						1～8					
特殊講義Ⅱ						1～8					
特殊講義Ⅲ						1～8					
特殊講義Ⅳ						1～8					
特別ゼミナールⅠ						1～8					
特別ゼミナールⅡ						1～8					
特別ゼミナールⅢ						1～8					
特別ゼミナールⅣ						1～8					

商学部商学科 カリキュラム・ツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー【DP】）

DP 1	豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけること。
DP 2	国際社会における生活慣習や環境の相違に基づく多様な価値観や世界観の存在を理解し、国際的視野に立つ異文化コミュニケーション能力を身につけること。
DP 3	修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につけること。

到達目標

A (DP 1 2)	異文化交流で活用できる語学（英語・中国語・韓国語）の基礎力と会話を身につけ、国際的ビジネスコミュニケーション能力を養成する。	E (DP 3)	主体的に企業経営や組織運営の諸問題を発見し、専門的知識を創造的に駆使して、問題を構成する諸課題を能動的に解決していける実践的な能力を養成する。
	語学・社会と文化・専門キャリアアップ		専門基礎・商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B）
B (DP 1 2)	一般的・普遍的な教養を身につける。	F (DP 3)	商学・観光学分野の知識と両分野の学修に不可欠な関連諸科学の基礎知識を相互に関連づけて理解し、活用する能力を身につける。
	語学・社会と文化・専門関連		専門基礎・専門関連・商学科専門（A・B・C）観光産業学科専門（A・B・C・D）
C (DP 3)	商学・観光学分野への関心を幅広く醸成し、両分野の基礎的知識を修得する。	G (DP 1 3)	卒業後の進路や職業選択を意識した資格取得やスキルアップを通してアカデミックキャリアを形成する。企業や社会の実態を知ることを通して、将来へ向けた確かなキャリアを形成する。
	専門関連・商学科専門（A・B・C）・専門キャリアアップ		商学科専門D・観光産業学科専門（A・B・C）
D (DP 1 2 3)	(商) 東アジアを中心としたグローバル化を見据えた商取引の諸問題を解決するための創造的な発想と実践力を身につける。（観）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた観光産業及びビジネス全般に有用な基礎的・専門的知識とその応用力を身につける。	H (DP 1 3)	生涯必要とされる多様な学修に通じる基礎的な知識やスキル、リテラシーを獲得し、思考力と実行力・課題解決力を向上させる。
	商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B・C）		商学科専門D・観光産業学科専門D・専門キャリアアップ

セメスター（難易度）

1	➡	2	➡	3	➡	4	➡	5	➡	6	➡	7	➡	8
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

語学（AB）

英会話Ⅰ
中国語Ⅰ
韓国語Ⅰ

英会話Ⅱ
英会話Ⅲ
中国語Ⅱ
韓国語Ⅱ

英会話・作文Ⅰ
中国語会話・作文Ⅰ
韓国語会話・作文Ⅰ

英会話・作文Ⅱ
中国語会話・作文Ⅱ
韓国語会話・作文Ⅱ

社会と文化（AB）

異文化コミュニケーションA
異文化コミュニケーションB
論理と思考A
近代社会と倫理学A
哲学と社会思想A
市民社会と自由A
日本近代とアジアA
東アジアの動きA
日本文化と東アジアA
日本文学と日本語A
国際経済の動きA
言語の科学A
国際社会と異文化交流A
異文化と言語A
国際社会と安全保障A
社会文化ゼミナール
中国社会文化特講
韓国社会文化特講
現代社会と情報ネットワークA
文化心理学A
質的社会調査論A
東アジア比較開発A
地域比較開発論
都市比較デザインの現状

異文化コミュニケーションC
異文化コミュニケーションD
論理と思考B
近代社会と倫理学B
哲学と社会思想B
市民社会と自由B
日本近代とアジアB
東アジアの動きB
日本文化と東アジアB
日本文学と日本語B
国際経済の動きB
言語の科学B
国際社会と異文化交流B
異文化と言語B
国際社会と安全保障B
異文化ゼミナール
中国社会文化特講
社会と経済（中国）
社会と経済（韓国）
現代社会と情報ネットワークB
文化心理学B
質的社会調査論B
東アジア比較開発B

異文化コミュニケーションE
異文化コミュニケーションF

専門基礎（EFH）

経済と社会の仕組みⅠ
経済システム理論Ⅰ
コンピュータ・リテラシーⅠ

専門関連（BCF）

現代アメリカ政治A
量的社会調査方法論A
現代中国論A
東アジア政治思想A
日本経済論A
現代中国经济論
現代韓国経済論
比較企業形態論
国際関係論（政治学を含む）
環境科学論
労働経済論
情報社会と統計
地域交通体系論
都市計画論
特殊講義Ⅰ～Ⅳ

異文化コミュニケーションG
異文化コミュニケーションH

経済と社会の仕組みⅡ
経済システム理論Ⅱ
コンピュータ・リテラシーⅡ

現代アメリカ政治B
量的社会調査方法論B
現代中国論B
東アジア政治思想B
日本経済論B
民法基礎
環境経済論

経済理論A
応用経済A
アジア比較文化論
比較経済論A
経済法
法社会の基礎(日本国憲法を含む)
労働法

地域コミュニティ論
経済理論B
応用経済B
北海道経済論
アメリカ比較文化論
比較経済論B
商法基礎
社会心理学
公共経済論

商学科専門A・B（CDEF）

マーケティングⅠ
企業経営論Ⅰ
金融システム論Ⅰ
アカウンティングⅠ
人的資源管理論Ⅰ
国際経営論Ⅰ
物流システム論Ⅰ
管理会計論Ⅰ
経営分析論Ⅰ
流通戦略論Ⅰ

マーケティングⅡ
企業経営論Ⅱ
金融システム論Ⅱ
アカウンティングⅡ
人的資源管理論Ⅱ
国際経営論Ⅱ
物流システム論Ⅱ
管理会計論Ⅱ
経営分析論Ⅱ
流通戦略論Ⅱ

商学科専門C（CDEF）

流通論
原価計算論

広告論
国際金融論
アントレプレナーシップ論
国際ビジネスコミュニケーション
国際経営組織論
中小企業経営論
企業経営戦略論
財務諸表論

商学科専門D（GH）

コマース研究ゼミナールⅠ

コマース研究ゼミナールⅡ

コマース研究ゼミナールⅢ

コマース研究ゼミナールⅣ

観光産業学科専門A・B（CDEFG）

観光学Ⅰ
観光事業論Ⅰ
観光地理論Ⅰ
観光政策論Ⅰ
観光産業論Ⅰ
観光振興論Ⅰ
観光情報学Ⅰ

観光学Ⅱ
観光事業論Ⅱ
観光地理論Ⅱ
観光政策論Ⅱ
観光産業論Ⅱ
観光振興論Ⅱ
観光情報学Ⅱ

観光産業学科専門C（DFG）

観光文化論

観光関連法規
旅行実務

観光形態論
観光景観論
観光調査論
地域観光論
旅行企画論
観光ビジネス論
ツーリズム研究

観光産業学科専門D（FH）

観光研究ゼミナールⅢ

観光研究ゼミナールⅣ

専門キャリアアップ（ACGH）

職業指導Ⅰ
社会行政論Ⅰ

社会行政論Ⅱ
税務会計論Ⅰ

社会行政論Ⅲ
税務会計論Ⅱ
情報管理論Ⅰ
旅行業務論Ⅰ
旅行業務論Ⅱ
通商実務論Ⅰ
通商実務論Ⅱ
PAL(専門職中国語)Ⅰ
PAL(専門職韓国語)Ⅰ
PAL(TOEIC英語)Ⅰ
商業科教育法Ⅰ
公民科教育法Ⅰ

職業指導Ⅱ(自由科目)
社会行政論Ⅳ
社会行政論Ⅴ
税務会計論Ⅲ
情報管理論Ⅱ
旅行業務論Ⅲ
通商実務論Ⅲ
PAL(専門職中国語)Ⅱ
PAL(専門職韓国語)Ⅱ
PAL(TOEIC英語)Ⅱ
インターシップⅠ
商業科教育法Ⅱ
公民科教育法Ⅱ

情報管理論Ⅲ
旅行業務論Ⅳ
通商実務論Ⅳ
PAL(専門職中国語)Ⅲ
PAL(専門職韓国語)Ⅲ
PAL(TOEIC英語)Ⅲ
インターシップⅡ

PAL(専門職中国語)Ⅳ
PAL(専門職韓国語)Ⅳ
PAL(TOEIC英語)Ⅳ

商学部観光産業学科 カリキュラム・ツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー【DP】）

DP 1	豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけること。
DP 2	国際社会における生活慣習や環境の相違に基づく多様な価値観や世界観の存在を理解し、国際的視野に立つ異文化コミュニケーション能力を身につけること。
DP 3	修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につけること。

到達目標

A (DP 1 2)	異文化交流で活用できる語学（英語・中国語・韓国語）の基礎力と会話力を身につけ、国際的ビジネスコミュニケーション能力を養成する。	E (DP 3)	主体的に企業経営や組織運営の諸問題を発見し、専門的知識を創造的に駆使して、問題を構成する諸課題を能動的に解決していける実践的な能力を養成する。
	語学・社会と文化・専門キャリアアップ		専門基礎・商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B）
B (DP 1 2)	一般的・普遍的な教養を身につける。	F (DP 3)	商学・観光学分野の知識と両分野の学修に不可欠な関連諸科学の基礎知識を相互に関連づけて理解し、活用する能力を身につける。
	語学・社会と文化・専門関連		専門基礎・専門関連・商学科専門（A・B・C）観光産業学科専門（A・B・C・D）
C (DP 3)	商学・観光学分野への関心を幅広く醸成し、両分野の基礎的知識を修得する。	G (DP 1 3)	卒業後の進路や職業選択を意識した資格取得やスキルアップを通してアカデミックキャリアを形成する。企業や社会の実態を知ることを通して、将来へ向けた確かなキャリアを形成する。
	専門関連・商学科専門（A・B・C）・専門キャリアアップ		商学科専門D・観光産業学科専門（A・B・C）
D (DP 1 2 3)	（観）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた観光産業及びビジネス全般に有用な基礎的・専門的知識とその応用力を身につける。（商）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた商取引の諸問題を解決するための創造的な発想と実践力を身につける。	H (DP 1 3)	生涯必要とされる多様な学修に通じる基礎的な知識やスキル、リテラシーを獲得し、思考力と実行力・課題解決力を向上させる。
	商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B・C）		商学科専門D・観光産業学科専門D・専門キャリアアップ

セメスター（難易度）



語学（AB）

英会話Ⅰ	英会話Ⅱ	英会話・作文Ⅰ	英会話・作文Ⅱ
中国語Ⅰ	英会話Ⅲ	中国語会話・作文Ⅰ	中国語会話・作文Ⅱ
韓国語Ⅰ	中国語Ⅱ	韓国語会話・作文Ⅰ	韓国語会話・作文Ⅱ
	韓国語Ⅱ		

社会と文化（AB）

異文化コミュニケーションA	異文化コミュニケーションC	異文化コミュニケーションE	異文化コミュニケーションG		
異文化コミュニケーションB	異文化コミュニケーションD	異文化コミュニケーションF	異文化コミュニケーションH		
論理と思考A	論理と思考B	専門基礎（EFH）			
近代社会と倫理学A	近代社会と倫理学B	経済と社会の仕組みⅠ	経済と社会の仕組みⅡ		
哲学と社会思想A	哲学と社会思想B	経済システム理論Ⅰ	経済システム理論Ⅱ		
市民社会と自由A	市民社会と自由B	コンピュータ・リテラシーⅠ	コンピュータ・リテラシーⅡ		
日本近代とアジアA	日本近代とアジアB	専門関連（BCF）			
東アジアの動きA	東アジアの動きB	現代アメリカ政治A	現代アメリカ政治B	経済理論A	地域コミュニティ論
日本文化と東アジアA	日本文化と東アジアB	量的社会調査方法論A	量的社会調査方法論B	応用経済A	経済理論B
日本文学と日本語A	日本文学と日本語B	現代中国論A	現代中国論B	アジア比較文化論	応用経済B
国際経済の動きA	国際経済の動きB	東アジア政治思想A	東アジア政治思想B	比較経済論A	北海道経済論
言語の科学A	言語の科学B	日本経済論A	日本経済論B	経済法	アメリカ比較文化論
国際社会と異文化交流A	国際社会と異文化交流B	現代中国経済論	民法基礎	法社会の基礎(日本国憲法を含む)	比較経済論B
異文化と言語A	異文化と言語B	現代韓国経済論	環境経済論	労働法	商法基礎
国際社会と安全保障A	国際社会と安全保障B	比較企業形態論			社会心理学
社会文化ゼミナール	異文化ゼミナール	国際関係論（政治学を含む）			公共経済論
中国社会文化特講	社会と経済（中国）	環境科学論			
韓国社会文化特講	社会と経済（韓国）	労働経済論			
現代社会と情報ネットワークA	現代社会と情報ネットワークB	情報社会と統計			
文化心理学A	文化心理学B	地域交通体系論			
質的社会調査論A	質的社会調査論B	都市計画論			
東アジア比較開発A	東アジア比較開発B	特殊講義Ⅰ～Ⅳ			
キャリアリテラシー					
地域比較開発論					
都市比較デザインの現状					

専門基礎（EFH）

データサイエンス・AI論

観光産業学科専門A・B（CDEFG）

観光学Ⅰ	観光学Ⅱ
観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅱ
観光地理論Ⅰ	観光地理論Ⅱ
観光政策論Ⅰ	観光政策論Ⅱ
観光産業論Ⅰ	観光産業論Ⅱ
観光振興論Ⅰ	観光振興論Ⅱ
観光情報学Ⅰ	観光情報学Ⅱ

観光産業学科専門C（DFG）

観光文化論	観光関連法規	観光形態論
	旅行業実務	観光景観論
		観光調査論
		地域観光論
		旅行企画論
		観光ビジネス論
		ツーリズム研究

観光産業学科専門D（FH）

観光研究ゼミナールⅠ	観光研究ゼミナールⅡ	観光研究ゼミナールⅢ	観光研究ゼミナールⅣ
------------	------------	------------	------------

商学科専門A・B（CDEF）

マーケティングⅠ	マーケティングⅡ
企業経営論Ⅰ	企業経営論Ⅱ
金融システム論Ⅰ	金融システム論Ⅱ
アカウンティングⅠ	アカウンティングⅡ
人的資源管理論Ⅰ	人的資源管理論Ⅱ
国際経営論Ⅰ	国際経営論Ⅱ
物流システム論Ⅰ	物流システム論Ⅱ
管理会計論Ⅰ	管理会計論Ⅱ
経営分析論Ⅰ	経営分析論Ⅱ
流通戦略論Ⅰ	流通戦略論Ⅱ

商学科専門C（CDEF）

流通論	広告論
原価計算論	国際金融論
	アントレプレナーシップ論
	国際ビジネスコミュニケーション
	国際経営組織論
	中小企業経営論
	企業経営戦略論
	財務諸表論

商学科専門D（GH）

コマース研究ゼミナールⅢ	コマース研究ゼミナールⅣ
--------------	--------------

専門キャリアアップ（ACGH）

職業指導Ⅰ	社会行政論Ⅱ	社会行政論Ⅲ	職業指導Ⅱ(自由科目)	情報管理論Ⅲ	PAL(専門職中国語)Ⅳ
社会行政論Ⅰ	税務会計論Ⅰ	税務会計論Ⅱ	社会行政論Ⅳ	旅行業務論Ⅳ	PAL（専門職韓国語）Ⅳ
		情報管理論Ⅰ	社会行政論Ⅴ	通商実務論Ⅳ	PAL（TOEIC英語）Ⅳ
		旅行業務論Ⅰ	税務会計論Ⅲ	PAL(専門職中国語)Ⅲ	
		旅行業務論Ⅱ	情報管理論Ⅱ	PAL（専門職韓国語）Ⅲ	
		通商実務論Ⅰ	旅行業務論Ⅲ	PAL（TOEIC英語）Ⅲ	
		通商実務論Ⅱ	通商実務論Ⅲ	インターシップⅡ	
		PAL(専門職中国語)Ⅰ	PAL(専門職中国語)Ⅱ		
		PAL（専門職韓国語）Ⅰ	PAL（専門職韓国語）Ⅱ		
		PAL（TOEIC英語）Ⅰ	PAL（TOEIC英語）Ⅱ		
		商業科教育法Ⅰ	インターシップⅠ		
		公民科教育法Ⅰ	商業科教育法Ⅱ		
			公民科教育法Ⅱ		

北 海 商 科 大 学 学 則
北海商科大学大学院学則
学 位 規 則 及 び 諸 規 程

令和 7 年 4 月 1 日改定

北 海 商 科 大 学

目 次

I 北海商科大学

北海商科大学学則	p. 1
北海商科大学入学試験規程	p.27
北海商科大学編入学規程	p.29
北海商科大学海外留学規程	p.30
北海商科大学研究生規程	p.32
北海商科大学科目等履修生規程	p.34
北海商科大学授業料等に関する規程	p.36
北海商科大学表彰規程	p.38
北海商科大学学生の懲戒に関する規程	p.39
北海商科大学奨学規程	p.43
北海商科大学教育振興資金管理運営規程	p.44
北海商科大学教職課程履修規程	p.46
北海商科大学商学部の各学科における人材養成並びに教育研究上の目的に関する規程	p.52
北海商科大学所属学科決定に関する規程	p.53
北海商科大学履修規程	p.54
北海商科大学センター協議会規程	p.57
北海商科大学教育研究評価委員会規程	p.58
北海商科大学 FD 委員会規程	p.60
北海商科大学 SD 委員会規程	p.61
北海商科大学教務センター規程	p.62
北海商科大学学術発展センター規程	p.64
北海商科大学入試・広報センター規程	p.65
北海商科大学学生支援センター規程	p.67
北海商科大学キャリア支援センター規程	p.69
北海商科大学国際交流センター規程	p.70
北海商科大学の個人情報の取扱いについて（プライバシー・ポリシー）	p.72
北海商科大学ハラスメント防止委員会に関する規程	p.74
北海商科大学アクセシビリティ支援委員会規程	p.76
北海商科大学における公的研究費の管理・監査等に関する規程	p.78
北海商科大学危機管理に関する規程	p.82
北海商科大学学長候補選挙規程	p.85
北海商科大学学部長候補選出に関する規程	p.89
北海商科大学センター長候補選出・職務規程	p.90
北海商科大学名誉教授等称号授与規程	p.91
北海商科大学衛生委員会規程	p.93
北海商科大学及び北海学園大学大学院法務研究科校舎消防計画	p.95
北海商科大学開発政策研究所規程	p.110
北海商科大学情報セキュリティ規程	p.112
北海商科大学情報セキュリティ対策基準	p.116

別表 1 (1) 商学部・商学科

1. 異文化交流科目

区分	授業科目	年次及び単位数								計	備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
語学	英会話Ⅰ	9								9	(卒業要件) 必修科目（語学9単位以上、 専門基礎科目17単位以上、専門科目（ゼミナール科目）4単位以上）を含み、合計124単位以上（ただし、自由科目を除く。）
	英会話Ⅱ		9							9	
	英会話Ⅲ		6							6	
	英会話・作文Ⅰ			6						6	
	英会話・作文Ⅱ				4					4	
	中国語Ⅰ	9								9	
	中国語Ⅱ		9							9	
	留学中国語	12								12	
	海外中国語		15							15	
	中国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	中国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	韓国語Ⅰ	9								9	
	韓国語Ⅱ		9							9	
	留学韓国語	12								12	
	海外韓国語		15							15	
	韓国語会話・作文Ⅰ			6						6	
韓国語会話・作文Ⅱ				4					4		
社会文化	論理と思考A	3								3	
	論理と思考B		3							3	
	近代社会と倫理学A	3								3	
	近代社会と倫理学B		3							3	
	哲学と社会思想A	3								3	
	哲学と社会思想B		3							3	
	市民社会と自由A	3								3	
	市民社会と自由B		3							3	
	日本近代とアジアA	3								3	
	日本近代とアジアB		3							3	
	東アジアの動きA	3								3	
	東アジアの動きB		3							3	
	日本文化と東アジアA	3								3	
	日本文化と東アジアB		3							3	
	日本文学と日本語A	3								3	
	日本文学と日本語B		3							3	
	国際経済の動きA	3								3	
	国際経済の動きB		3							3	
	言語の科学A	2								2	
	言語の科学B		2							2	
	国際社会と異文化交流A	2								2	
	国際社会と異文化交流B		2							2	
	異文化と言語A	2								2	
	異文化と言語B		2							2	
	国際社会と安全保障A	2								2	
	国際社会と安全保障B		2							2	
	スポーツの科学				2					2	
	中国社会文化特講	1								1	
	韓国社会文化特講	1								1	
	社会と経済（中国）		2							2	
	社会と経済（韓国）		2							2	
	キャリアリテラシー	3								3	
	地域比較開発論	3								3	
	都市比較デザインの現状	3								3	
	現代社会と情報ネットワークA	3								3	
	現代社会と情報ネットワークB		3							3	
	文化心理学A	3								3	
	文化心理学B		3							3	
	質的社会調査論A	2								2	
	質的社会調査論B		2							2	
	東アジア比較開発A	2								2	
	東アジア比較開発B		2							2	
	異文化コミュニケーションA	1								1	
	異文化コミュニケーションB	1								1	
	異文化コミュニケーションC		1							1	
	異文化コミュニケーションD		1							1	
異文化コミュニケーションE			1						1		
異文化コミュニケーションF			1						1		
異文化コミュニケーションG				1					1		
異文化コミュニケーションH				1					1		
社会文化ゼミナール	2								2		
異文化ゼミナール		2							2		

2. 専門基礎科目

区分	授業科目	年次及び単位数								備考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			計
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門基礎科目	データサイエンス・AI論	2								2	17単位以上
	経済と社会の仕組みⅠ			3						3	
	経済と社会の仕組みⅡ				2					2	
	経済システム理論Ⅰ			3						3	
	経済システム理論Ⅱ				2					2	
	コンピュータ・リテラシーⅠ			3						3	
	コンピュータ・リテラシーⅡ				2					2	
	小計	2	0	9	6	0	0	0	0	17	

3. 専門関連科目

区分	授業科目	年次及び単位数								計	備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門関連科目	経済理論A					3				3	
	経済理論B						2			2	
	応用経済A					3				3	
	応用経済B						2			2	
	北海道経済論						2			2	
	日本経済論A			2						2	
	日本経済論B				2					2	
	現代中国経済論			2						2	
	現代韓国経済論			2						2	
	比較企業形態論			2						2	
	アジア比較文化論					2				2	
	アメリカ比較文化論						2			2	
	比較経済論A					2				2	
	比較経済論B						2			2	
	国際関係論(政治学を含む)			2						2	
	環境科学論			2						2	
	環境経済論				2					2	
	公共経済論						2			2	
	労働経済論			2						2	
	情報社会と統計			2						2	
	社会心理学							2		2	
	地域交通体系論			2						2	
	都市計画論			2						2	
	民法基礎				2					2	
	商法基礎						2			2	
	経済法						2			2	
	労働法						2			2	
	法社会の基礎（日本国憲法を含む）						2			2	
	現代アメリカ政治A			2						2	
	現代アメリカ政治B				2					2	
	量的社会調査方法論A			2						2	
	量的社会調査方法論B				2					2	
	地域コミュニティ論							2		2	
	現代中国論A			2						2	
	現代中国論B				2					2	
	東アジア政治思想A			2						2	
東アジア政治思想B				2					2		
特殊講義Ⅰ						1～8					
特殊講義Ⅱ						1～8					
特殊講義Ⅲ						1～8					
特殊講義Ⅳ						1～8					
特別ゼミナールⅠ						1～8					
特別ゼミナールⅡ						1～8					
特別ゼミナールⅢ						1～8					
特別ゼミナールⅣ						1～8					

別表 1 (2) 商学部・観光産業学科

1. 異文化交流科目

区分	授業科目	年次及び単位数								計	備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
語 学	英会話Ⅰ	9								9	(卒業要件) 必修科目（語学9単位以上、 専門基礎科目17単位以上、専門科目（ゼミナール科目）4単位以上）を含み、合計124単位以上（ただし、自由科目を除く。）
	英会話Ⅱ		9							9	
	英会話Ⅲ		6							6	
	英会話・作文Ⅰ			6						6	
	英会話・作文Ⅱ				4					4	
	中国語Ⅰ	9								9	
	中国語Ⅱ		9							9	
	留学中国語	12								12	
	海外中国語		15							15	
	中国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	中国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	韓国語Ⅰ	9								9	
	韓国語Ⅱ		9							9	
	留学韓国語	12								12	
社 会 と 文 化	海外韓国語		15							15	
	韓国語会話・作文Ⅰ			6						6	
	韓国語会話・作文Ⅱ				4					4	
	論理と思考A	3								3	
	論理と思考B		3							3	
	近代社会と倫理学A	3								3	
	近代社会と倫理学B		3							3	
	哲学と社会思想A	3								3	
	哲学と社会思想B		3							3	
	市民社会と自由A	3								3	
	市民社会と自由B		3							3	
	日本近代とアジアA	3								3	
	日本近代とアジアB		3							3	
	東アジアの動きA	3								3	
東アジアの動きB		3							3		
日本文化と東アジアA	3								3		
日本文化と東アジアB		3							3		
日本文学と日本語A	3								3		
日本文学と日本語B		3							3		
国際経済の動きA	3								3		
国際経済の動きB		3							3		
言語の科学A	2								2		
言語の科学B		2							2		
国際社会と異文化交流A	2								2		
国際社会と異文化交流B		2							2		
異文化と言語A	2								2		
異文化と言語B		2							2		
国際社会と安全保障A	2								2		
国際社会と安全保障B		2							2		
スポーツの科学				2					2		
中国社会文化特講	1								1		
韓国社会文化特講	1								1		
社会と経済（中国）		2							2		
社会と経済（韓国）		2							2		
キャリアリテラシー	3								3		
地域比較開発論	3								3		
都市比較デザインの現状	3								3		
現代社会と情報ネットワークA	3								3		
現代社会と情報ネットワークB		3							3		
文化心理学A	3								3		
文化心理学B		3							3		
質的社会調査論A	2								2		
質的社会調査論B		2							2		
東アジア比較開発A	2								2		
東アジア比較開発B		2							2		
異文化コミュニケーションA	1								1		
異文化コミュニケーションB	1								1		
異文化コミュニケーションC		1							1		
異文化コミュニケーションD		1							1		
異文化コミュニケーションE			1						1		
異文化コミュニケーションF			1						1		
異文化コミュニケーションG				1					1		
異文化コミュニケーションH				1					1		
社会文化ゼミナール	2								2		
異文化ゼミナール		2							2		

2. 専門基礎科目

区 分	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			計
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専 門 基 礎 科 目	データサイエンス・AI論	2								2	17単位以上
	経済と社会の仕組みⅠ			3						3	
	経済と社会の仕組みⅡ				2					2	
	経済システム理論Ⅰ			3						3	
	経済システム理論Ⅱ				2					2	
	コンピュータ・リテラシーⅠ			3						3	
	コンピュータ・リテラシーⅡ				2					2	
	小計	2	0	9	6	0	0	0	0	17	

3. 専門関連科目

区分	授業科目	年次及び単位数									備考
		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		1 セ	2 セ	3 セ	4 セ	5 セ	6 セ	7 セ	8 セ		
専門関連科目	経済理論A					3				3	
	経済理論B						2			2	
	応用経済A					3				3	
	応用経済B						2			2	
	北海道経済論						2			2	
	日本経済論A			2						2	
	日本経済論B				2					2	
	現代中国経済論			2						2	
	現代韓国経済論			2						2	
	比較企業形態論			2						2	
	アジア比較文化論					2				2	
	アメリカ比較文化論						2			2	
	比較経済論A					2				2	
	比較経済論B						2			2	
	国際関係論(政治学を含む)			2						2	
	環境科学論			2						2	
	環境経済論				2					2	
	公共経済論						2			2	
	労働経済論			2						2	
	情報社会と統計			2						2	
	社会心理学							2		2	
	地域交通体系論			2						2	
	都市計画論			2						2	
	民法基礎				2					2	
	商法基礎						2			2	
	経済法						2			2	
	労働法						2			2	
	法社会の基礎（日本国憲法を含む）						2			2	
	現代アメリカ政治A			2						2	
	現代アメリカ政治B				2					2	
	量的社会調査方法論A			2						2	
	量的社会調査方法論B				2					2	
	地域コミュニティ論							2		2	
	現代中国論A			2						2	
	現代中国論B				2					2	
	東アジア政治思想A			2						2	
東アジア政治思想B				2					2		
特殊講義Ⅰ						1～8					
特殊講義Ⅱ						1～8					
特殊講義Ⅲ						1～8					
特殊講義Ⅳ						1～8					
特別ゼミナールⅠ						1～8					
特別ゼミナールⅡ						1～8					
特別ゼミナールⅢ						1～8					
特別ゼミナールⅣ						1～8					

商学部商学科 カリキュラム・ツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー【DP】）

DP 1	豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけること。
DP 2	国際社会における生活慣習や環境の相違に基づく多様な価値観や世界観の存在を理解し、国際的視野に立つ異文化コミュニケーション能力を身につけること。
DP 3	修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につけること。

到達目標

A (DP 1 2)	異文化交流で活用できる語学（英語・中国語・韓国語）の基礎力と会話を身につけ、国際的ビジネスコミュニケーション能力を養成する。	E (DP 3)	主體的に企業経営や組織運営の諸問題を発見し、専門的知識を創造的に駆使して、問題を構成する諸課題を能動的に解決していける実践的な能力を養成する。
	語学・社会と文化・専門キャリアアップ		専門基礎・商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B）
B (DP 1 2)	一般的・普遍的な教養を身につける。	F (DP 3)	商学・観光学分野の知識と両分野の学修に不可欠な関連諸科学の基礎知識を相互に関連づけて理解し、活用する能力を身につける。
	語学・社会と文化・専門関連		専門基礎・専門関連・商学科専門（A・B・C）観光産業学科専門（A・B・C・D）
C (DP 3)	商学・観光学分野への関心を幅広く醸成し、両分野の基礎的知識を修得する。	G (DP 1 3)	卒業後の進路や職業選択を意識した資格取得やスキルアップを通してアカデミックキャリアを形成する。企業や社会の実態を知ることを通して、将来へ向けた確かなキャリアを形成する。
	専門関連・商学科専門（A・B・C）・専門キャリアアップ		商学科専門D・観光産業学科専門（A・B・C）
D (DP 1 2 3)	(商) 東アジアを中心としたグローバル化を見据えた商取引の諸問題を解決するための創造的な発想と実践力を身につける。（観）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた観光産業及びビジネス全般に有用な基礎的・専門的知識とその応用力を身につける。	H (DP 1 3)	生涯必要とされる多様な学修に通じる基礎的な知識やスキル、リテラシーを獲得し、思考力と実行力・課題解決力を向上させる。
	商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B・C）		商学科専門D・観光産業学科専門D・専門キャリアアップ

セメスター（難易度）



語学（AB）
英会話Ⅰ
中国語Ⅰ
韓国語Ⅰ

英会話Ⅱ
英会話Ⅲ
中国語Ⅱ
韓国語Ⅱ

英会話・作文Ⅰ
中国語会話・作文Ⅰ
韓国語会話・作文Ⅰ

英会話・作文Ⅱ
中国語会話・作文Ⅱ
韓国語会話・作文Ⅱ

社会と文化（AB）
異文化コミュニケーションA
異文化コミュニケーションB
論理と思考A
近代社会と倫理学A
哲学と社会思想A
市民社会と自由A
日本近代とアジアA
東アジアの動きA
日本文化と東アジアA
日本文学と日本語A
国際経済の動きA
言語の科学A
国際社会と異文化交流A
異文化と言語A
国際社会と安全保障A
社会文化ゼミナール
中国社会文化特講
韓国社会文化特講
現代社会と情報ネットワークA
文化心理学A
質的社会調査論A
東アジア比較開発A
キャリアリテラシー
地域比較開発論
都市比較デザインの現状

異文化コミュニケーションC
異文化コミュニケーションD
論理と思考B
近代社会と倫理学B
哲学と社会思想B
市民社会と自由B
日本近代とアジアB
東アジアの動きB
日本文化と東アジアB
日本文学と日本語B
国際経済の動きB
言語の科学B
国際社会と異文化交流B
異文化と言語B
国際社会と安全保障B
異文化ゼミナール
社会と経済（中国）
社会と経済（韓国）
現代社会と情報ネットワークB
文化心理学B
質的社会調査論B
東アジア比較開発B

異文化コミュニケーションE
異文化コミュニケーションF
専門基礎（EFH）
経済と社会の仕組みⅠ
経済システム理論Ⅰ
コンピュータ・リテラシーⅠ
専門関連（BCF）
現代アメリカ政治A
量的社会調査方法論A
現代中国論A
東アジア政治思想A
日本経済論A
現代中国経済論
現代韓国経済論
比較企業形態論
国際関係論（政治学を含む）
環境科学論
労働経済論
情報社会と統計
地域交通体系論
都市計画論
特殊講義Ⅰ～Ⅳ

異文化コミュニケーションG
異文化コミュニケーションH

経済と社会の仕組みⅡ
経済システム理論Ⅱ
コンピュータ・リテラシーⅡ

現代アメリカ政治B
量的社会調査方法論B
現代中国論B
東アジア政治思想B
日本経済論B
民法基礎
環境経済論

経済理論A
応用経済A
アジア比較文化論
比較経済論A
経済法
法社会の基礎（日本国憲法を含む）
労働法

地域コミュニティ論
経済理論B
応用経済B
北海道経済論
アメリカ比較文化論
比較経済論B
商法基礎
社会心理学
公共経済論

商学科専門A・B（CDEF）

マーケティングⅠ
企業経営論Ⅰ
金融システム論Ⅰ
アカウンティングⅠ
人的資源管理論Ⅰ
国際経営論Ⅰ
物流システム論Ⅰ
管理会計論Ⅰ
経営分析論Ⅰ
流通戦略論Ⅰ

マーケティングⅡ
企業経営論Ⅱ
金融システム論Ⅱ
アカウンティングⅡ
人的資源管理論Ⅱ
国際経営論Ⅱ
物流システム論Ⅱ
管理会計論Ⅱ
経営分析論Ⅱ
流通戦略論Ⅱ

商学科専門C（CDEF）

流通論
原価計算論

広告論
国際金融論
アントレプレナーシップ論
国際ビジネスコミュニケーション
国際経営組織論
中小企業経営論
企業経営戦略論
財務諸表論

商学科専門D（GH）

コマース研究ゼミナールⅠ

コマース研究ゼミナールⅡ

コマース研究ゼミナールⅢ

コマース研究ゼミナールⅣ

観光産業学科専門A・B（CDEFG）

観光学Ⅰ
観光事業論Ⅰ
観光地理論Ⅰ
観光政策論Ⅰ
観光産業論Ⅰ
観光振興論Ⅰ
観光情報学Ⅰ

観光学Ⅱ
観光事業論Ⅱ
観光地理論Ⅱ
観光政策論Ⅱ
観光産業論Ⅱ
観光振興論Ⅱ
観光情報学Ⅱ

観光産業学科専門C（DFG）

観光文化論

観光関連法規
観光景観論
旅行実務

観光形態論
観光調査論
地域観光論
旅行企画論
観光ビジネス論
ツーリズム研究

観光産業学科専門D（FH）

観光研究ゼミナールⅢ

観光研究ゼミナールⅣ

専門キャリアアップ（ACGH）

職業指導Ⅰ
社会行政論Ⅰ

社会行政論Ⅱ
税務会計論Ⅰ

社会行政論Ⅲ
税務会計論Ⅱ
情報管理論Ⅰ
旅行業務論Ⅰ
旅行業務論Ⅱ
通商実務論Ⅰ
通商実務論Ⅱ
PAL(専門職中国語)Ⅰ
PAL(専門職韓国語)Ⅰ
PAL(TOEIC英語)Ⅰ
商業科教育法Ⅰ
公民科教育法Ⅰ

職業指導Ⅱ(自由科目)
社会行政論Ⅳ
社会行政論Ⅴ
税務会計論Ⅲ
情報管理論Ⅱ
旅行業務論Ⅲ
通商実務論Ⅲ
PAL(専門職中国語)Ⅱ
PAL(専門職韓国語)Ⅱ
PAL(TOEIC英語)Ⅱ
インターシップⅠ
商業科教育法Ⅱ
公民科教育法Ⅱ

情報管理論Ⅲ
旅行業務論Ⅳ
通商実務論Ⅳ
PAL(専門職中国語)Ⅲ
PAL(専門職韓国語)Ⅲ
PAL(TOEIC英語)Ⅲ
インターシップⅡ

PAL(専門職中国語)Ⅳ
PAL(専門職韓国語)Ⅳ
PAL(TOEIC英語)Ⅳ

商学部観光産業学科 カリキュラム・ツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー【DP】）

DP 1	豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけること。
DP 2	国際社会における生活慣習や環境の相違に基づく多様な価値観や世界観の存在を理解し、国際的視野に立つ異文化コミュニケーション能力を身につけること。
DP 3	修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につけること。

到達目標

A (DP 1 2)	異文化交流で活用できる語学（英語・中国語・韓国語）の基礎力と会話力を身につけ、国際的ビジネスコミュニケーション能力を養成する。	E (DP 3)	主体的に企業経営や組織運営の諸問題を発見し、専門的知識を創造的に駆使して、問題を構成する諸課題を能動的に解決していける実践的な能力を養成する。
	語学・社会と文化・専門キャリアアップ		専門基礎・商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B）
B (DP 1 2)	一般的・普遍的な教養を身につける。	F (DP 3)	商学・観光学分野の知識と両分野の学修に不可欠な関連諸科学の基礎知識を相互に関連づけて理解し、活用する能力を身につける。
	語学・社会と文化・専門関連		専門基礎・専門関連・商学科専門（A・B・C）観光産業学科専門（A・B・C・D）
C (DP 3)	商学・観光学分野への関心を幅広く醸成し、両分野の基礎的知識を修得する。	G (DP 1 3)	卒業後の進路や職業選択を意識した資格取得やスキルアップを通してアカデミックキャリアを形成する。企業や社会の実態を知ることを通して、将来へ向けた確かなキャリアを形成する。
	専門関連・商学科専門（A・B・C）・専門キャリアアップ		商学科専門D・観光産業学科専門（A・B・C）
D (DP 1 2 3)	（観）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた観光産業及びビジネス全般に有用な基礎的・専門的知識とその応用力を身につける。（商）東アジアを中心としたグローバル化を見据えた商取引の諸問題を解決するための創造的な発想と実践力を身につける。	H (DP 1 3)	生涯必要とされる多様な学修に通じる基礎的な知識やスキル、リテラシーを獲得し、思考力と実行力・課題解決力を向上させる。
	商学科専門（A・B・C）・観光産業学科専門（A・B・C）		商学科専門D・観光産業学科専門D・専門キャリアアップ

セメスター（難易度）

1	➡	2	➡	3	➡	4	➡	5	➡	6	➡	7	➡	8
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

語学（AB）

英会話Ⅰ	英会話Ⅱ
中国語Ⅰ	英会話Ⅲ
韓国語Ⅰ	中国語Ⅱ
	韓国語Ⅱ

社会と文化（AB）

異文化コミュニケーションA	異文化コミュニケーションC
異文化コミュニケーションB	異文化コミュニケーションD
論理と思考A	論理と思考B
近代社会と倫理学A	近代社会と倫理学B
哲学と社会思想A	哲学と社会思想B
市民社会と自由A	市民社会と自由B
日本近代とアジアA	日本近代とアジアB
東アジアの動きA	東アジアの動きB
日本文化と東アジアA	日本文化と東アジアB
日本文学と日本語A	日本文学と日本語B
国際経済の動きA	国際経済の動きB
言語の科学A	言語の科学B
国際社会と異文化交流A	国際社会と異文化交流B
異文化と言語A	異文化と言語B
国際社会と安全保障A	国際社会と安全保障B
社会文化ゼミナール	異文化ゼミナール
中国社会文化特講	社会と経済（中国）
韓国社会文化特講	社会と経済（韓国）
現代社会と情報ネットワークA	現代社会と情報ネットワークB
文化心理学A	文化心理学B
質的社会調査論A	質的社会調査論B
東アジア比較開発A	東アジア比較開発B
キャリアリテラシー	
地域比較開発論	
都市比較デザインの現状	

専門基礎（B）

データサイエンス・AI論

英会話・作文Ⅰ
中国語会話・作文Ⅰ
韓国語会話・作文Ⅰ

異文化コミュニケーションE
異文化コミュニケーションF

専門基礎（EFH）
経済と社会の仕組みⅠ
経済システム理論Ⅰ
コンピュータ・リテラシーⅠ

専門関連（BCF）
現代アメリカ政治A
量的社会調査方法論A
現代中国論A
東アジア政治思想A
日本経済論A
現代中国経済論
現代韓国経済論
比較企業形態論
国際関係論（政治学を含む）
環境科学論
労働経済論
情報社会と統計
地域交通体系論
都市計画論
東アジア開発Ⅳ

英会話・作文Ⅱ
中国語会話・作文Ⅱ
韓国語会話・作文Ⅱ

異文化コミュニケーションG
異文化コミュニケーションH

経済と社会の仕組みⅡ
経済システム理論Ⅱ
コンピュータ・リテラシーⅡ

現代アメリカ政治B
量的社会調査方法論B
現代中国論B
東アジア政治思想B
日本経済論B
民法基礎
環境経済論

経済理論A
応用経済A
アジア比較文化論
比較経済論A
経済法
法社会の基礎(日本国憲法を含む)
労働法

地域コミュニティ論
経済理論B
応用経済B
北海道経済論
アメリカ比較文化論
比較経済論B
商法基礎
社会心理学
公共経済論

観光産業学科専門A・B（CDEFG）

観光学Ⅰ	観光学Ⅱ
観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅱ
観光地理論Ⅰ	観光地理論Ⅱ
観光政策論Ⅰ	観光政策論Ⅱ
観光産業論Ⅰ	観光産業論Ⅱ
観光振興論Ⅰ	観光振興論Ⅱ
観光情報学Ⅰ	観光情報学Ⅱ

観光産業学科専門C（DFG）

観光文化論	観光関連法規
	観光景観論
	旅行実務

観光産業学科専門D（FH）

観光研究ゼミナールⅠ	観光研究ゼミナールⅡ
------------	------------

観光形態論
観光調査論
地域観光論
旅行企画論
観光ビジネス論
ツーリズム研究

観光研究ゼミナールⅢ

商学科専門A・B（CDEF）

マーケティングⅠ
企業経営論Ⅰ
金融システム論Ⅰ
アカウンティングⅠ
人的資源管理論Ⅰ
国際経営論Ⅰ
物流システム論Ⅰ
管理会計論Ⅰ
経営分析論Ⅰ
流通戦略論Ⅰ

観光研究ゼミナールⅣ

マーケティングⅡ
企業経営論Ⅱ
金融システム論Ⅱ
アカウンティングⅡ
人的資源管理論Ⅱ
国際経営論Ⅱ
物流システム論Ⅱ
管理会計論Ⅱ
経営分析論Ⅱ
流通戦略論Ⅱ

商学科専門C（CDEF）

流通論
原価計算論

広告論
国際金融論
アントレプレナーシップ論
国際ビジネスコミュニケーション
国際経営組織論
中小企業経営論
企業経営戦略論
財務諸表論

商学科専門D（GH）

コマース研究ゼミナールⅢ

コマース研究ゼミナールⅣ

専門キャリアアップ（ACGH）

職業指導Ⅰ	社会行政論Ⅱ
社会行政論Ⅰ	税務会計論Ⅰ

社会行政論Ⅲ
税務会計論Ⅱ
情報管理論Ⅰ
旅行業務論Ⅰ
旅行業務論Ⅱ
通商実務論Ⅰ
通商実務論Ⅱ
PAL(専門職中国語)Ⅰ
PAL(専門職韓国語)Ⅰ
PAL(TOEIC英語)Ⅰ
商業科教育法Ⅰ
公民科教育法Ⅰ

職業指導Ⅱ(自由科目)
社会行政論Ⅳ
社会行政論Ⅴ
税務会計論Ⅲ
情報管理論Ⅱ
旅行業務論Ⅲ
通商実務論Ⅲ
PAL(専門職中国語)Ⅱ
PAL(専門職韓国語)Ⅱ
PAL(TOEIC英語)Ⅱ
インターシップⅠ
商業科教育法Ⅱ
公民科教育法Ⅱ

情報管理論Ⅲ
旅行業務論Ⅳ
通商実務論Ⅳ
PAL(専門職中国語)Ⅲ
PAL(専門職韓国語)Ⅲ
PAL(TOEIC英語)Ⅲ
インターシップⅡ

PAL(専門職中国語)Ⅳ
PAL(専門職韓国語)Ⅳ
PAL(TOEIC英語)Ⅳ

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規程

(総 則)

第1条 北海商科大学学則第 55 条に基づき、北海商科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会（以下「委員会」という。）を設け、この規程を定める。

(目 的)

第2条 委員会は、本学の「北海商科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（以下「プログラム」という。）の全学的な実施、並びにプログラムの改善・向上及び自己点検・評価を行うことを目的とする。

(構 成)

第3条 委員会は次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 委員長は、学長が委嘱し、委員を運営・総括する。
- (2) 委員は、学長が指名した教職員若干名
- (3) その他、委員会委員長が指名する委員

(任 期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(業 務)

第5条 委員会は、第2条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) プログラムの周知及び運営に関すること
- (2) プログラムを構成する科目の見直し等、改善・向上に関すること
- (3) プログラムの自己点検・評価及び結果の公表に関すること
- (4) その他委員会が必要と認める業務

(委員長)

第6条 委員長は第3条第1号の委員をもって充て、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長に事故あるときは、予め委員長の指名した委員が委員長の職務を代行する。

(委員会)

第7条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、全員一致によって決定されるよう努め、やむを得ない場合は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 委員長又は委員会が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

4 必要に応じて、委員会のもとに小委員会を置くことができる。

(事務の所管)

第8条 委員会の事務は、教務センターが担当する。

2 事務を担当する職員は、委員会に出席し、委員長及び委員の求めに応じて説明及び意見

を述べることができる。

附 則

この規程は、令和 7 年 2 月 1 日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規程

(総 則)

第1条 北海商科大学学則第 55 条に基づき、北海商科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会（以下「委員会」という。）を設け、この規程を定める。

(目 的)

第2条 委員会は、本学の「北海商科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（以下「プログラム」という。）の全学的な実施、並びにプログラムの改善・向上及び自己点検・評価を行うことを目的とする。

(構 成)

第3条 委員会は次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 委員長は、学長が委嘱し、委員を運営・総括する。
- (2) 委員は、学長が指名した教職員若干名
- (3) その他、委員会委員長が指名する委員

(任 期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(業 務)

第5条 委員会は、第2条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) プログラムの周知及び運営に関すること
- (2) プログラムを構成する科目の見直し等、改善・向上に関すること
- (3) プログラムの自己点検・評価及び結果の公表に関すること
- (4) その他委員会が必要と認める業務

(委員長)

第6条 委員長は第3条第1号の委員をもって充て、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長に事故あるときは、予め委員長の指名した委員が委員長の職務を代行する。

(委員会)

第7条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、全員一致によって決定されるよう努め、やむを得ない場合は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 委員長又は委員会が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

4 必要に応じて、委員会のもとに小委員会を置くことができる。

(事務の所管)

第8条 委員会の事務は、教務センターが担当する。

2 事務を担当する職員は、委員会に出席し、委員長及び委員の求めに応じて説明及び意見

を述べることができる。

附 則

この規程は、令和 7 年 2 月 1 日から施行する。

大学等名	北海商科大学（商学部）	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7年度

北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム （リテラシーレベル） 取り組みの概要



学校法人 北海学園

北海商科大学
HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

本プログラムの目的

- Society5.0で実現する社会を見据え、日常生活や 仕事の場で現れるデータやAIを理解するための基礎的教養とスキルを身に付けます。

授業概要

本プログラムの対象科目は3科目あり、どれも全学必修科目となっています。対象科目は、文系学生を対象とした授業内容となっており、商学や観光学における学修深化を共通して目的としています。

- 1年次配置授業である「**データサイエンス・AI論**」では、商学や観光学への応用を含め、リテラシーレベルモデルカリキュラムの導入・心得・基礎の内容をカバーし、基礎的教養を身に付けます。
- 2年次配置授業である「**コンピュータ・リテラシーⅠ**」と「**Ⅱ**」は、コンピュータを使用する際に心得ておくべき情報倫理等の諸常識を学ぶだけではなく、ビジネスデータの実戦的な処理練習がおこなわれ、リテラシーレベルモデルカリキュラムにおける「社会での実例を題材としたデータの扱い」をカバーし、データ分析スキルの基礎を身に付けます。

修了要件

本プログラムの対象科目は、**全学必修科目**となっており、卒業時までに対象科目の**7単位**を修得することが本プログラムの修了要件になります。

実施体制

「**北海商科大学 数理・データサイエンス教育プログラム運営委員会**」が中心となって全学的なプログラムを運営します。また、学内の他のセンター・委員会と連携し、全学的に実施される授業評価アンケートなどを用いて、プログラムの改善・向上計画の策定、自己点検・評価を実施します。このプログラムに係る主要な事項は教務センターを通じて、教授会で情報が共有されます。

大学等名	北海商科大学（商学部）	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7年度

北海商科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム （リテラシーレベル） 補足資料



学校法人 北海学園

北海商科大学
HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

プログラムを実施するための全学的な体制

プログラム運営責任者：学長

